

食品安全モニター課題報告

「食品の安全性の確保に関する施策の浸透状況等について」(平成 18 年 2 月実施)の結果

【調査の概要】(詳細は別添参照)

1. 調査目的

食品の安全性の確保に関する施策の浸透状況等について、食品安全委員会の取組みに一定の知識を有する食品安全モニターの認識を把握し、今後の食品安全委員会の取組の参考とするため、調査を実施した。

なお、一部の設問については、本年 1 月(19~21 日)、国民の食品安全への意識、対応する情報・技能の状況、食品安全行政への理解の浸透を把握するために、全国の 20 歳代以上を対象に実施したインターネットアンケート調査「食の安全・安心に関するアンケート 2006」(以下「インターネット調査」という。)と同じとし、当該調査の対象者である国民と食品安全モニターとの調査結果の比較も行った。

調査項目は、次の 2 項目である。

1. インターネット調査項目

(リスクコミュニケーションに関する知識、認知度、態度など)

2. 食品安全モニター活動関係

(食品の安全性に関する情報の周囲への伝達やその反応など)

2. 実施期間

平成 18 年 2 月 16 日~2 月 28 日

3. 対象

食品安全モニター 468 名

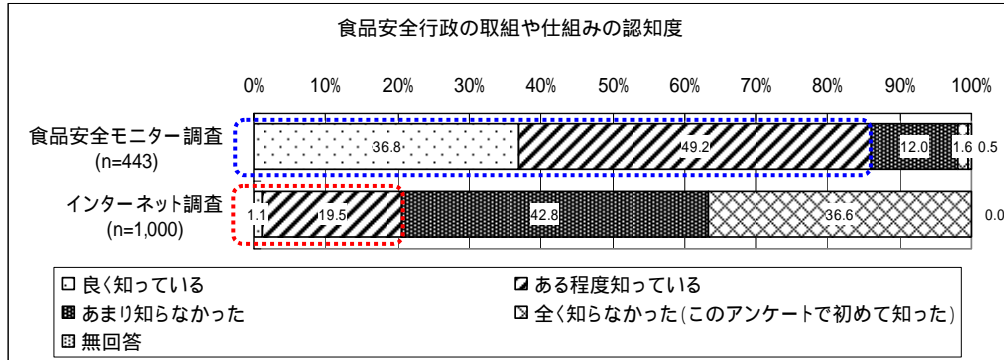
有効回答数 443 名 (有効回答率: 94.7%)

【結果概要】

1) インターネット調査項目

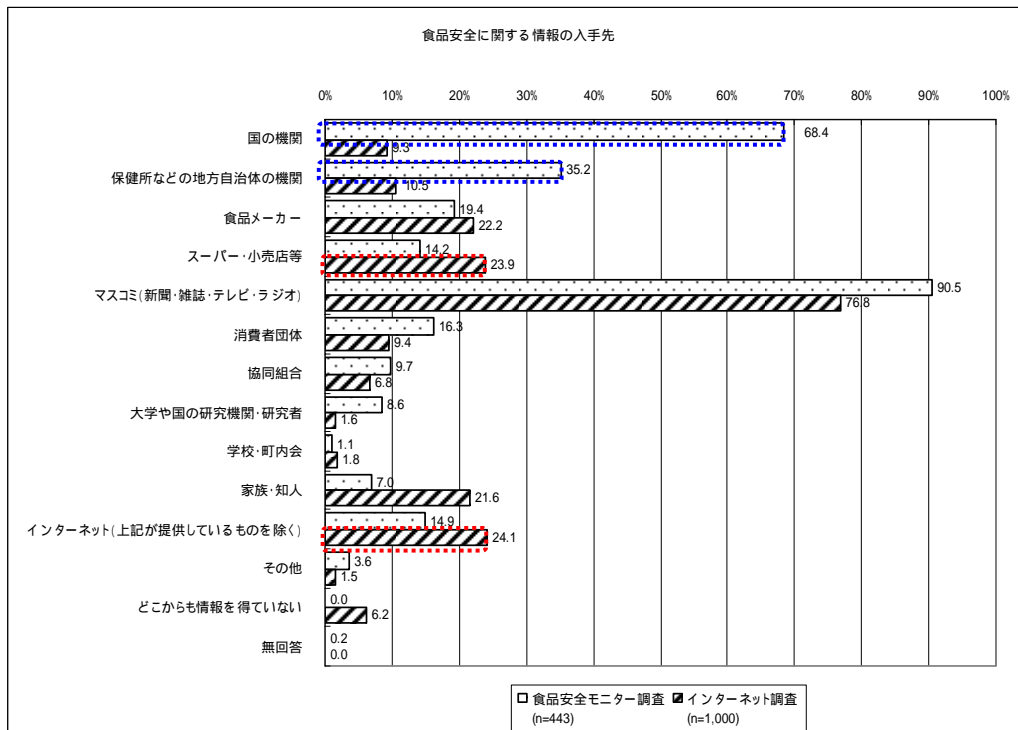
食品安全行政の取組や仕組みの認知度

- ◆ インターネット調査と比較すると、食品安全モニター調査では、国の取組や仕組みについて、4 倍の割合の人が認知



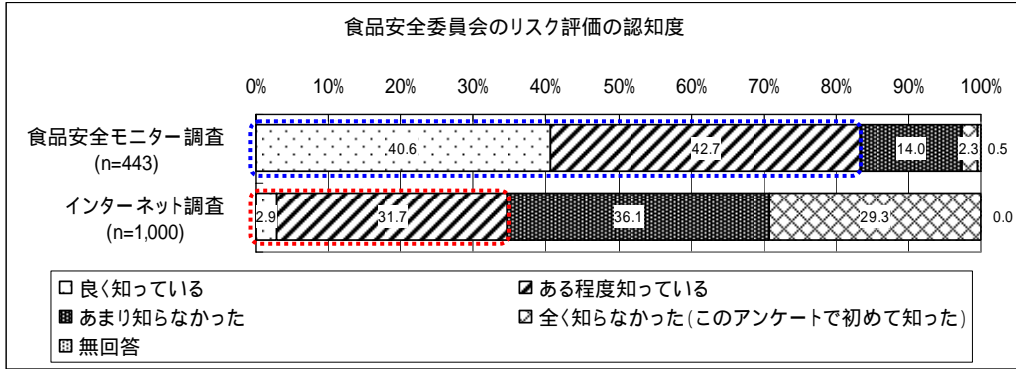
食品安全に関する情報の入手先

- ◆ 情報の入手先は、食品安全モニター調査、インターネット調査共に 1 位がマスコミ、2 位以下には差異



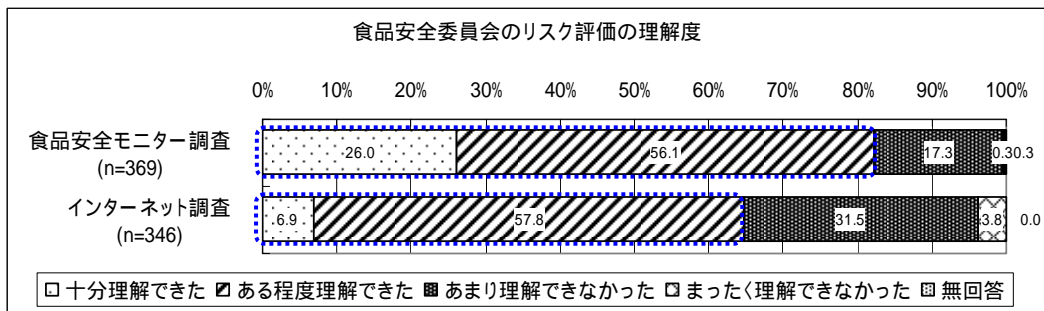
米国産牛肉等に関するリスク評価結果の認知度

- ◆ 食品安全委員会の米国・カナダ産牛肉のリスク評価結果は、食品安全モニター調査で8割強、インターネット調査で約3割の人が認知

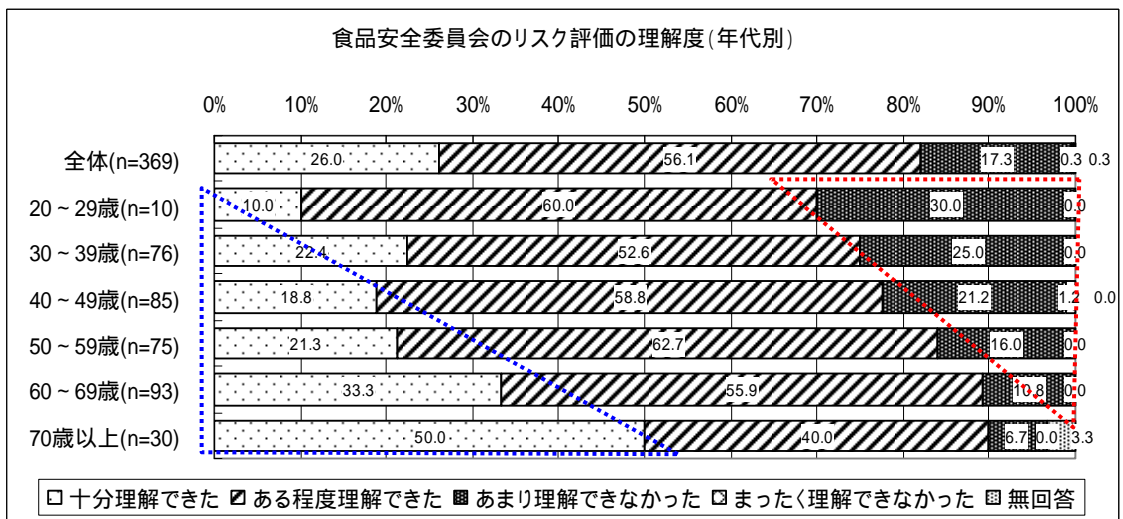


米国産牛肉等に関するリスク評価結果の理解度

- ◆ リスク評価結果を認知している人のうち、食品安全モニター調査では8割強、インターネット調査では6割強の人が理解

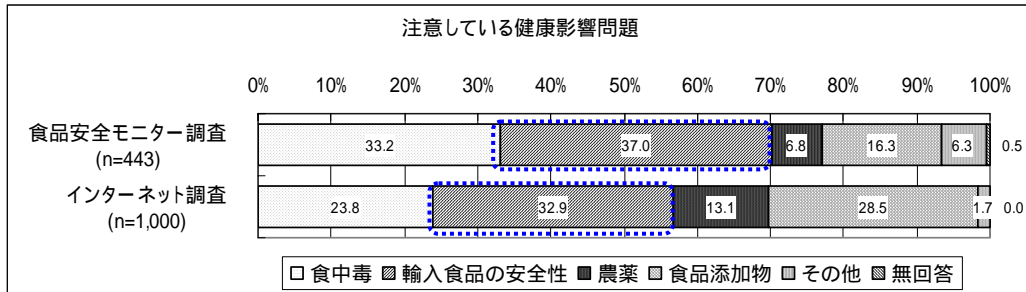


食品安全モニター調査では、年齢が高いほど理解度が高くなる傾向

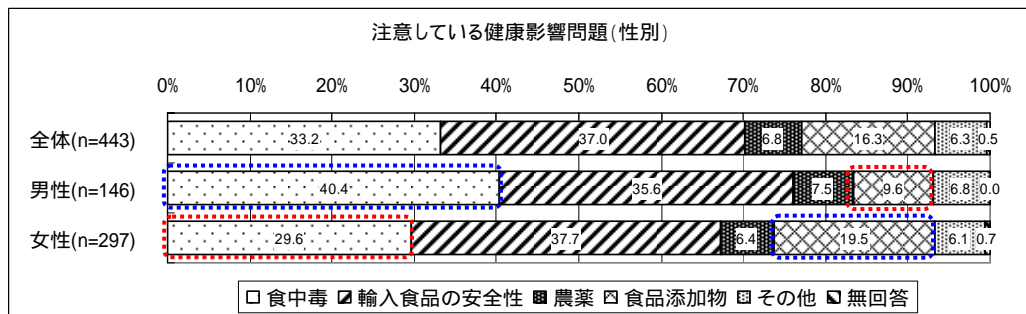


注意している健康影響問題

- ◆ 一番注意しなければならない食品由来の健康影響は、食品安全モニター調査、インターネット調査共に1位が輸入食品の安全性、2位以下には差異



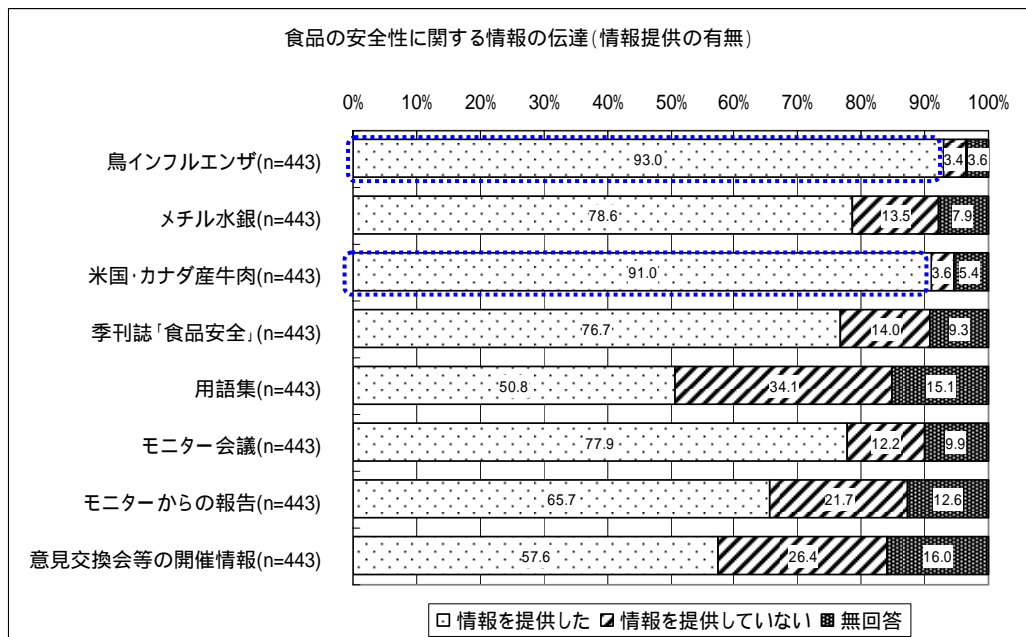
- ◆ 食品安全モニター調査では、男性は食中毒、女性は食品添加物の影響を重視



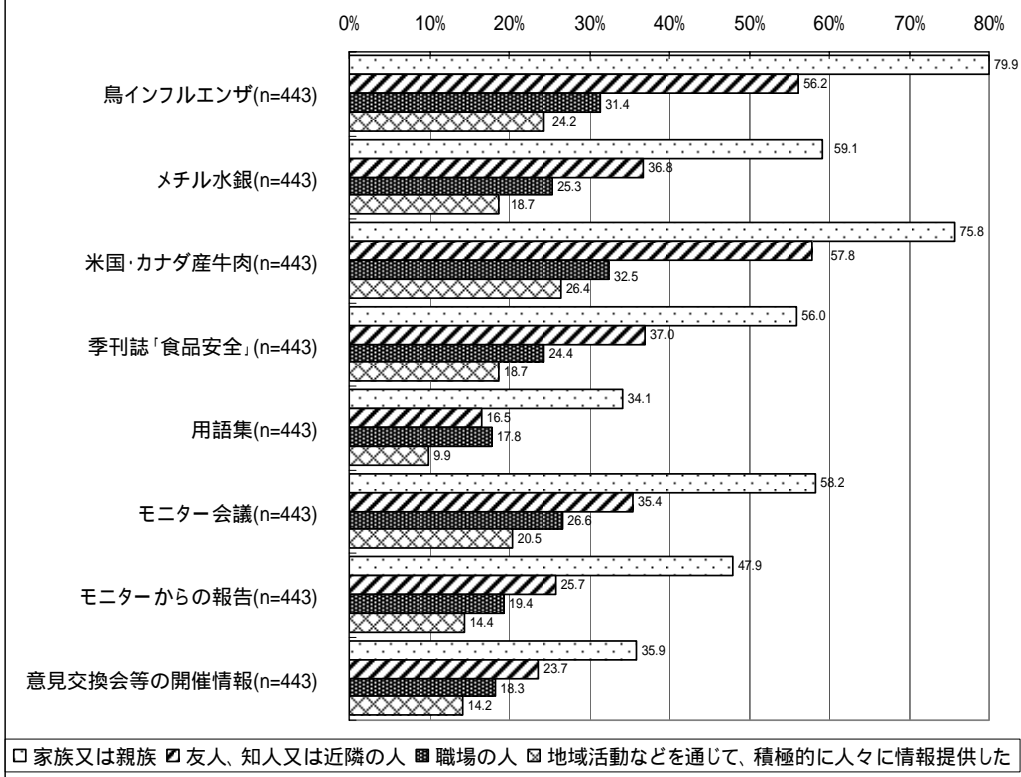
2) 食品安全モニター活動関係

食品の安全性に関する情報の伝達

- ◆ 鳥インフルエンザ、米国・カナダ産牛肉については、9割強の人が情報を提供

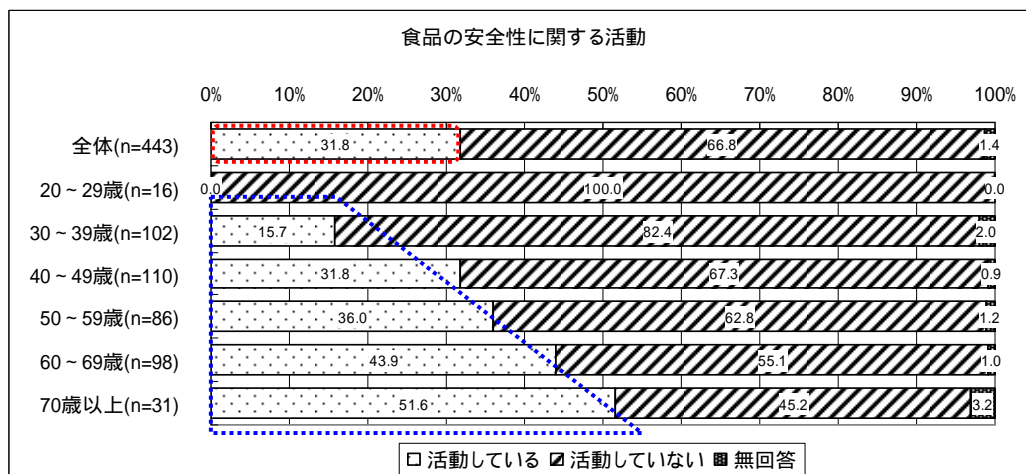


食品の安全性に関する情報の伝達(情報提供先)



食品の安全性に関する活動

- ◆ 食品安全モニターの3割が食品安全に関する活動しており、年齢が高い人ほど、食の安全性に関する活動に多く参加



【別添】

1. 調査目的

食品の安全性の確保に関する施策の浸透状況等について、食品安全委員会の取組みに一定の知識を有する食品安全モニターの認識を把握し、今後の食品安全委員会の取組の参考とするため、調査を実施した。

なお、一部の設問については、本年1月(19～21日)、国民の食品安全への意識、対応する情報・技能の状況、食品安全行政への理解の浸透を把握するために、全国の20歳代以上を対象に実施したインターネットアンケート調査「食の安全・安心に関するアンケート 2006」(以下「インターネット調査」という。)と同じとし、当該調査の対象者である国民と食品安全モニターとの調査結果の比較も行った。

調査項目は、次の2項目である。

1. インターネット調査項目

(リスクコミュニケーションに関する知識、認知度、態度など)

2. 食品安全モニター活動関係

(食品の安全性に関する情報の周知への伝達やその反応など)

2. 実施期間

平成18年2月16日～2月28日

3. 対象

食品安全モニター 468名

有効回答数 443名 (有効回答率：94.7%)

1) 食品安全モニター

① 男女別：

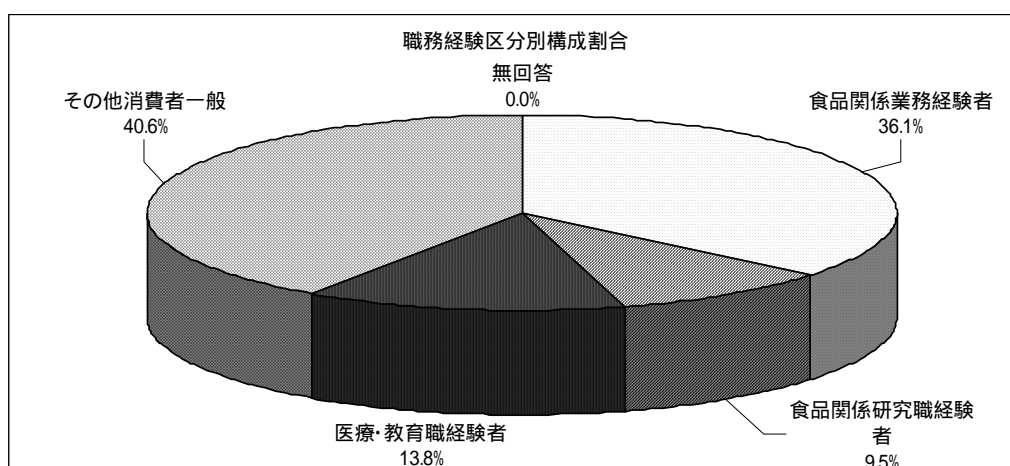
	回答者数	割合
全体	443人	100.0%
男性	146人	33.0%
女性	297人	67.0%

② 年齢別：

	回答者数	割合
全体	443 人	100.0%
20～29 歳	16 人	3.6%
30～39 歳	102 人	23.0%
40～49 歳	110 人	24.8%
50～59 歳	86 人	19.4%
60～69 歳	98 人	22.1%
70 歳以上	31 人	7.0%

③ 職務経験区分別：

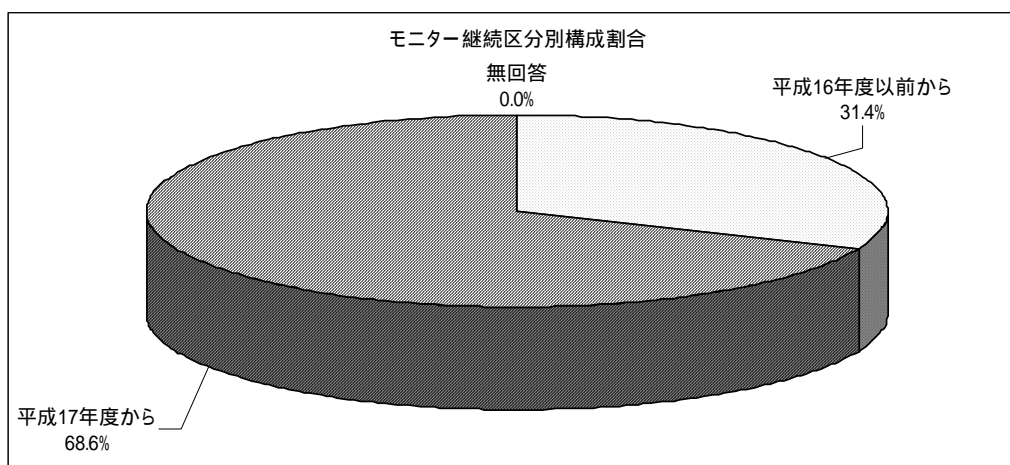
食品関係業務経験者	・現在もしくは過去において、食品の生産、加工、流通、販売等に関する職業(飲食物調理従事者、会社・団体等役員などを含む)に就いた経験を5年以上有している方 ・過去に食品の安全に関する行政に従事した経験を5年以上有している方	160 人
食品関係研究職経験者	・現在もしくは過去において、試験研究機関(民間の試験研究機関を含む)、大学等で食品の研究に関する専門的な職業に就いた経験を5年以上有している方	42 人
医療・教育職経験者	・現在もしくは過去において、医療・教育に関する職業(医師、獣医師、薬剤師、看護師、小中高校教師等)に就いた経験を5年以上有している方	61 人
その他消費者一般	・上記の項目に該当しない方	180 人



	男女別		年代区分別			全体
	男性	女性	20～39歳	40～59歳	60歳以上	
食品関係業務経験者	90人	70人	35人	64人	61人	160人
	56.3%	43.8%	21.9%	40.0%	38.2%	100.0%
食品関係研究職経験者	20人	22人	8人	18人	16人	42人
	47.6%	52.4%	19.1%	42.8%	38.0%	100.0%
医療・教育職経験者	15人	46人	15人	25人	21人	61人
	24.6%	75.4%	24.6%	41.0%	34.4%	100.0%
その他消費者一般	21人	159人	60人	89人	31人	180人
	11.7%	88.3%	33.3%	49.5%	17.2%	100.0%

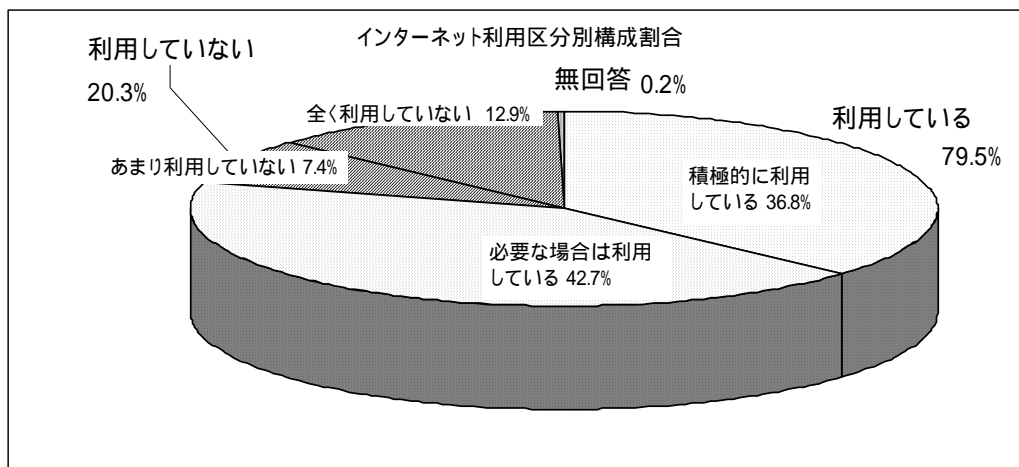
④ モニター継続区分別：

- 過去においても食品安全モニターに依頼されていた方
（以下「継続モニター」という。） 139人
- 平成17年度から、食品安全モニターに依頼された方
（以下「新規モニター」という。） 304人



⑤ インターネット利用区分別：

- インターネットを利用している方
（「積極的に利用している」、「必要な場合は利用している」） 352人
- インターネットを利用していない方
（「利用できる環境にあるが、あまり利用していない」、「まったく利用していない（利用できる環境に無い場合を含む）」） 90人



2) インターネット調査の回答者数の内訳

① 男女別：

	回答者数	割合
全体	1,000 人	100.0%
男性	518 人	51.8%
女性	482 人	48.2%

② 年代区分別：

	回答者数	割合
全体	1,000 人	100.0%
20～29 歳	168 人	16.8%
30～39 歳	189 人	18.9%
40～49 歳	162 人	16.2%
50～59 歳	197 人	19.7%
60～69 歳	236 人	23.6%
70 歳以上	48 人	4.8%

4. 調査結果

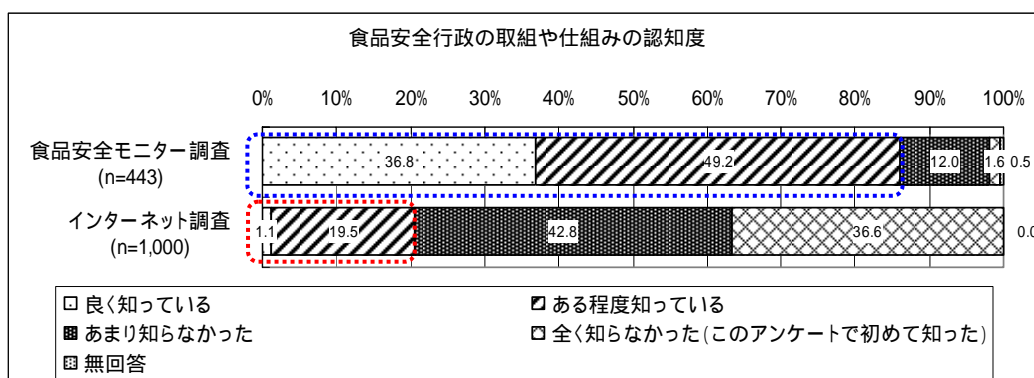
1) インターネット調査項目

① 食品安全行政の取組や仕組みの認知度

問1 あなたは、上記(注)のような国の取組や仕組みについて、どれくらいご存じですか。(1つ選択)

- ◆ 食品安全モニター調査の9割弱の人が、食品安全行政の取組や仕組みについて認知しているが、インターネット調査結果と大きな差

食品安全行政の取組や仕組みについて「良く知っている」とする回答割合は、食品安全モニター調査では36.8%であり、インターネット調査では1.1%であった。さらに、「ある程度知っている」とする人を加えると、食品安全モニター調査では86.0%、インターネット調査では20.6%であった。



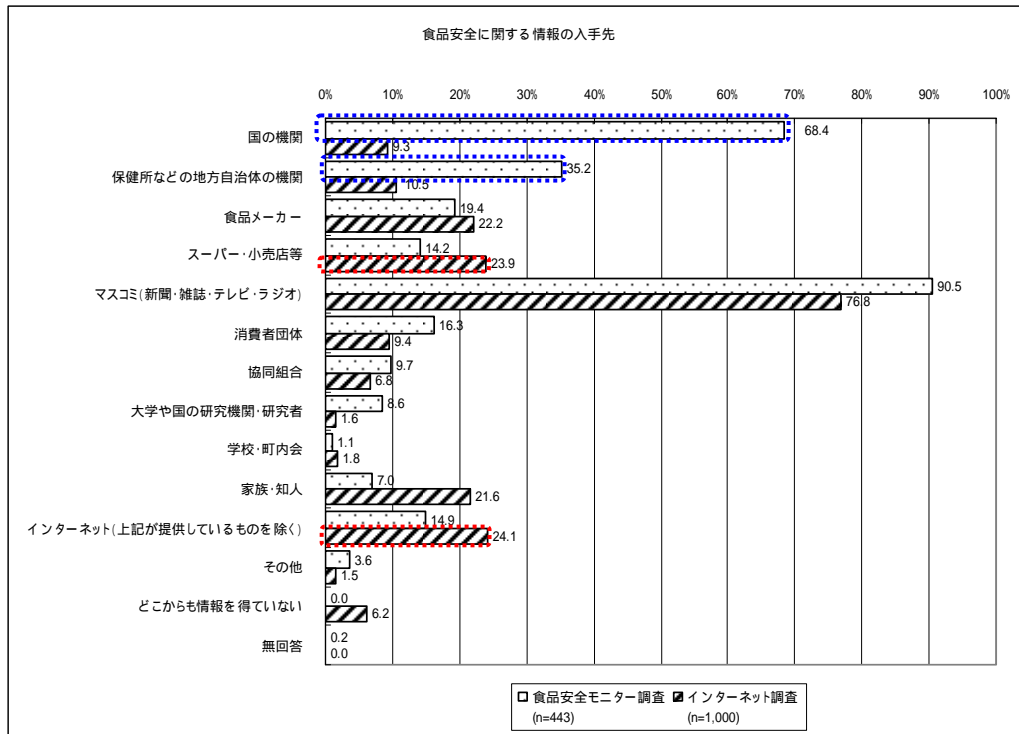
(注) 食品安全行政におけるリスク評価機関とリスク管理機関の分化やリスクコミュニケーションの取組の概要を説明

② 食品安全に関する情報の入手先

問2 あなたは、食品の安全に関する情報をどこから得ていますか。(3個以内選択)

- ◆ 情報の入手先は、食品安全モニター調査、インターネット調査共に1位がマスコミ、2位以下には差異

食品の安全に関する情報の入手先は、食品安全モニター調査、インターネット調査共に、「マスコミ」とする人の割合がそれぞれ90.5%、76.8%と最も高かった。食品安全モニター調査では、次いで「国の機関」(68.4%)、「保健所などの地方自治体の機関」(35.2%)、インターネット調査では「インターネット」(24.1%)、「スーパー・小売店等」(23.9%)、「食品メーカー」(22.2%)、「家族・知人」(21.6%)と続く。



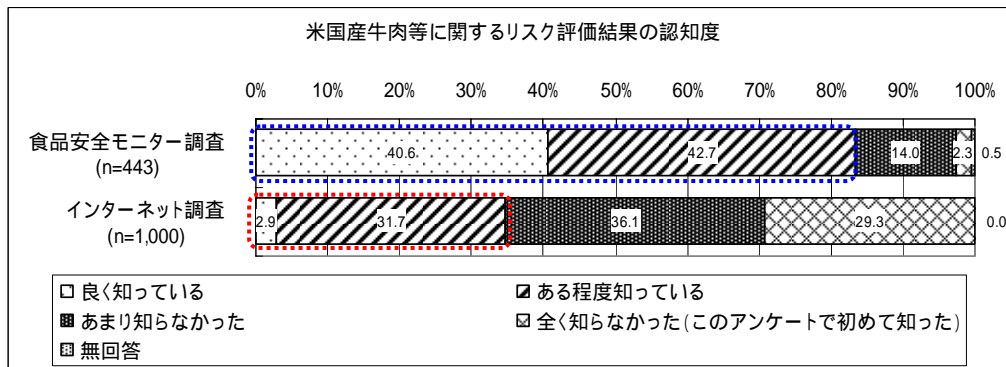
③ 米国産牛肉等に関するリスク評価結果の認知度

問3 食品安全委員会は、平成17年12月、国内産牛肉と米国・カナダ産牛肉のBSEリスクの同等性について評価を行い、以下のような結論を取りまとめました。
あなたは、このことをご存じですか。(1つ選択)

- ◆ 食品安全委員会の米国・カナダ産牛肉のリスク評価結果は、食品安全モニター調査で8割強、インターネット調査で約3割の人が認知

食品安全委員会の米国・カナダ産牛肉のリスク評価結果について「良く知っている」とする回答割合は、食品安全モニター調査では40.6%であり、インターネット調査では2.9%であった。

さらに、「ある程度知っている」とする人を加えると、食品安全モニター調査では83.3%、インターネット調査では34.6%であった。

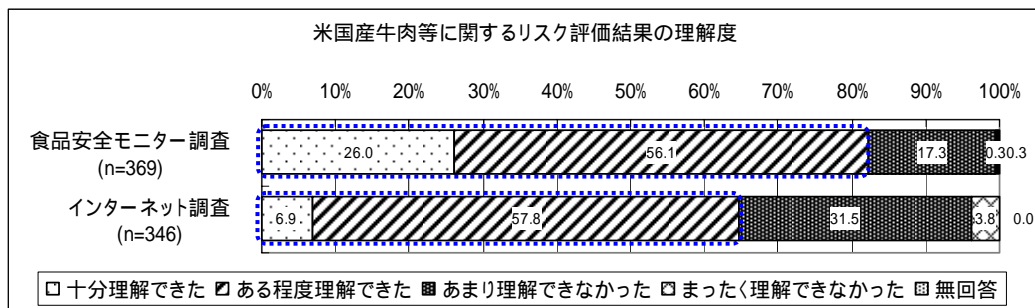


④ 米国産牛肉等に関するリスク評価結果の理解度

問4 問3で、のいずれかをお選びになった方にお聞きします。この評価の内容は、理解しやすかったですか。(1つ選択)

- ◆ リスク評価結果を認知している人のうち、食品安全モニター調査では8割強、インターネット調査では6割強の人が理解

食品安全委員会の米国・カナダ産牛肉のリスク評価結果について理解している人(「十分理解できた」もしくは「ある程度理解できた」と回答する人)は、食品安全モニター調査では82.1%、インターネット調査では64.7%であった。リスク評価結果の認知度では両調査ともに大きな違いが見られたが、理解度においては、両調査の差は理解度に比べ小さかった。



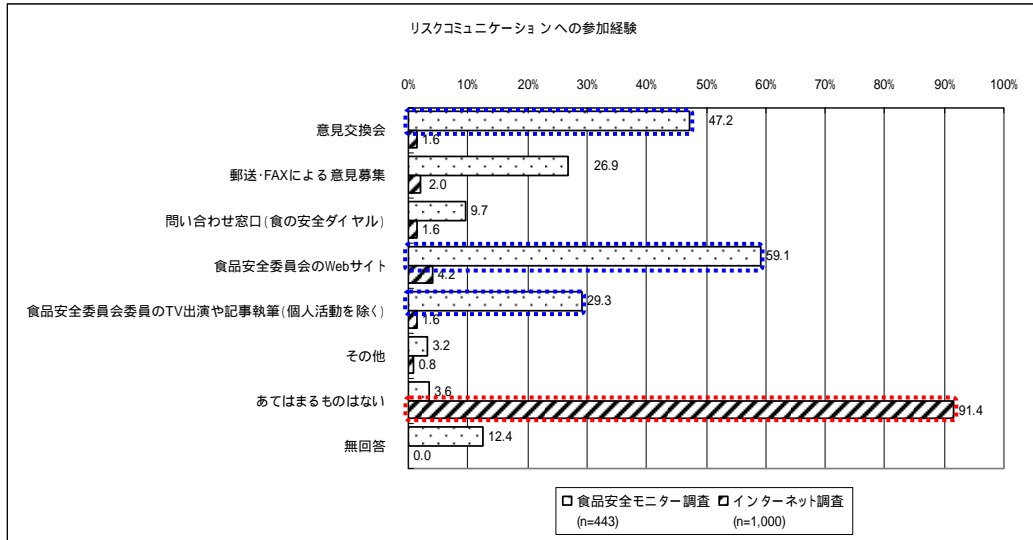
⑤ リスクコミュニケーションへの参加経験および参加希望

問5 食品安全委員会では、BSEに係る牛肉の安全性について、各地で開催する意見交換会をはじめ、問い合わせ窓口やインターネット等で、意見募集や情報提供を実施しました。以下のうち、あなたがこれまでに利用もしくは参加されたことがあるもの、および、今後利用もしくは参加してみたいものを選んでください。(複数選択)

(1)参加経験

- ◆ 食品安全モニター調査では、半数近くの人が意見交換会に参加した経験を有しているが、インターネット調査結果と大きな差

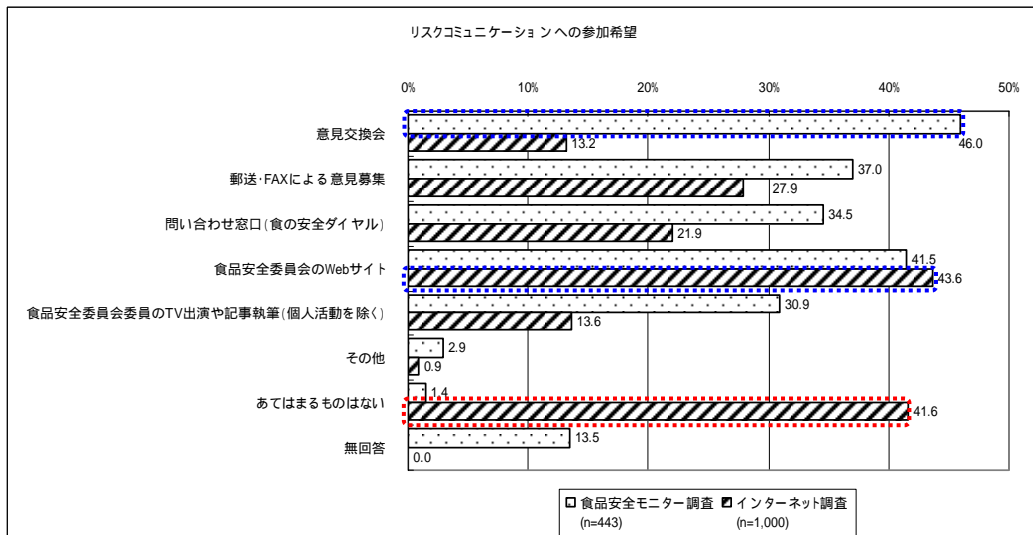
リスクコミュニケーションへの参加経験について、「あてはまるものがない」とする回答割合は、食品安全モニター調査では3.6%であり、インターネット調査では91.4%であった。食品安全モニター調査では、「食品安全委員会のWebサイト」(59.1%)、「意見交換会」(47.2%)、「食品安全委員会委員のTV出演や記事執筆」(29.3%)とする割合が高くなった。



(2)参加希望

- ◆ 食品安全モニター調査では、参加経験と同様に半数近くの人が意見交換会への参加を希望

食品安全モニター調査では、「意見交換会(46.0%)」、「食品安全委員会のWebサイト(41.5%)」、「郵送・FAXによる意見募集(37.0%)」の順に参加希望が多くなった。インターネット調査では、「食品安全委員会のWebサイト(43.6%)」、「郵送・FAXによる意見募集(27.9%)」、「問い合わせ窓口(21.9%)」の順に多くなったほか、「あてはまるものがない」という人が41.6%もいた。



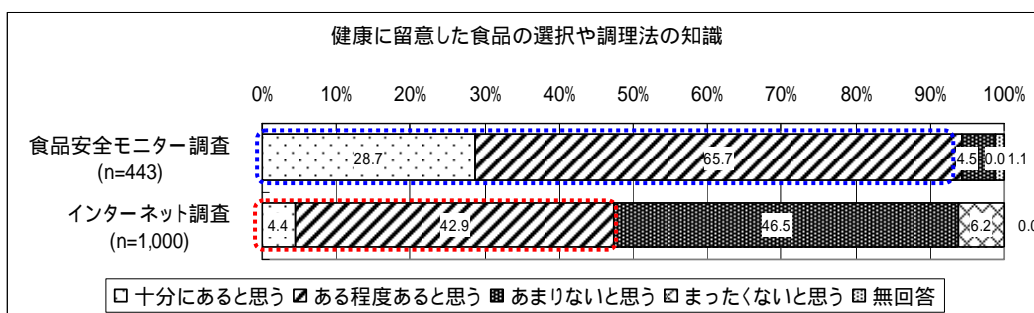
④ 健康に留意した食品の選択や調理法の知識

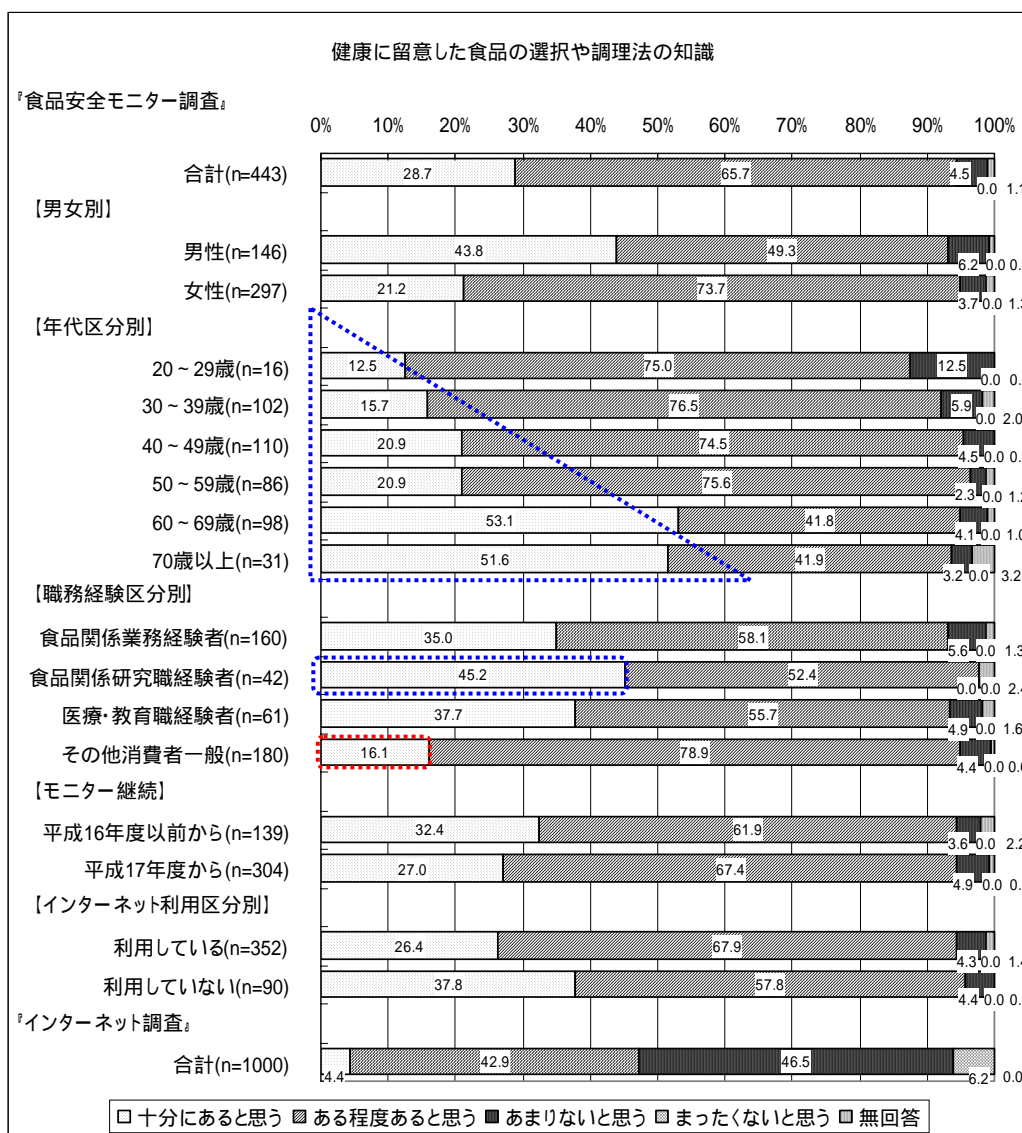
問6 あなたは、健康に悪影響を与えないようにするために、どのような食品を選んだ方が良いかや、どのような調理が必要かについての知識があると思いますか。(1つ選択)

◆ 食品安全モニター調査の9割強の人が、健康に留意した食品の選択や調理法の知識を持っていると思っているが、インターネット調査結果とは大きな差

健康に留意した食品の選択や調理法の知識について「十分にあると思う」とする回答割合は、食品安全モニター調査では28.7%であり、インターネット調査では4.4%であった。さらに、「ある程度あると思う」を加えると、食品安全モニター調査では94.4%、インターネット調査では47.3%であった。

また、食品安全モニター調査の回答結果を年代区分別に比較すると、「十分にあると思う」と答えた人は、年齢が高くなるにつれ増加し、「20～29歳」で12.5%であったのが、「60～69歳」で53.1%に達した。職業経験区分別では、「食品関係研究職経験者」が最も高く45.2%、「その他消費者一般」が最も低く16.1%であった。





⑤ 注意している健康影響問題

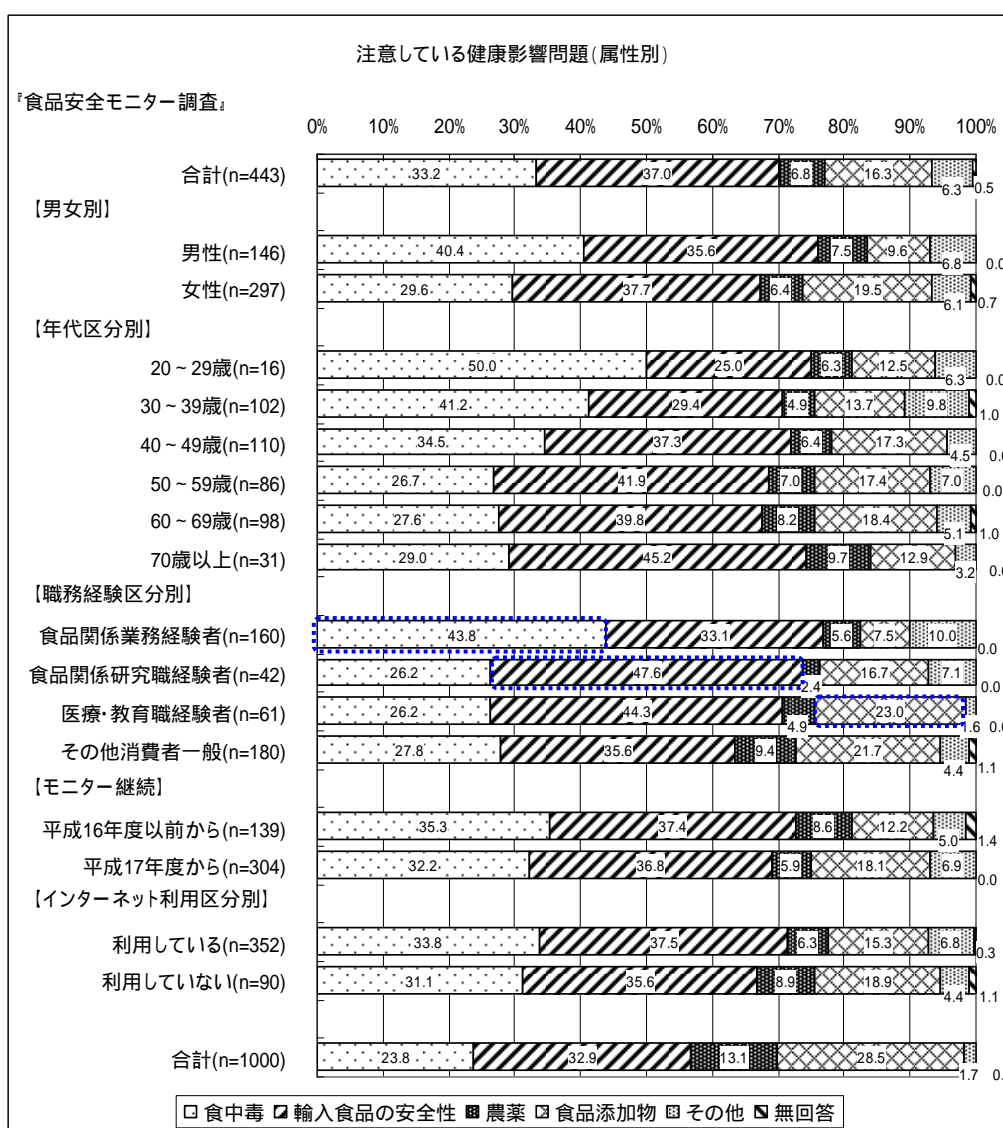
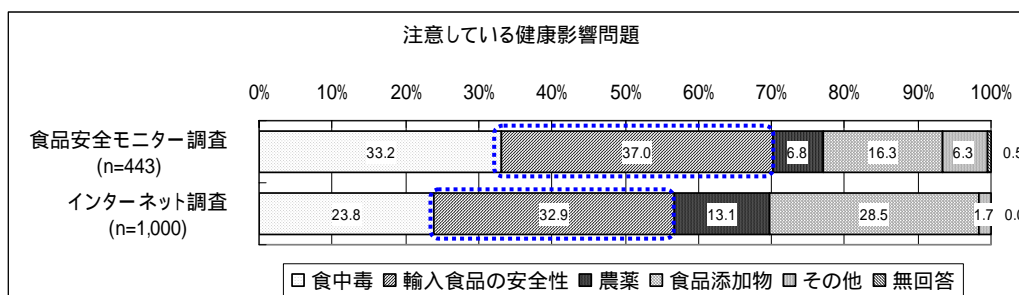
問7 あなたは、食品に由来する健康影響のなかで、何に一番注意しなければならないと思いますか。(1つ選択)

- ◆ 一番注意しなければならない食品由来の健康影響は、食品安全モニター調査、インターネット調査共に1位が輸入食品の安全性、2位以下には差異

一番注意しなければならない食品由来の健康影響は、食品安全モニター調査、インターネット調査共に、「輸入食品の安全性」とする人の割合がそれぞれ37.0%、32.9%と最も高かった。食品安全モニター調査では、次いで「食中毒(33.2%)」、「食品添加物(16.3%)」、インターネット調査では「食品添加物(28.5%)」、「食中毒(23.8%)」と続く。

また、食品安全モニター調査の回答結果を職務経験区分別に比較すると、食品業務

関係経験者では「食中毒」とする人の割合が43.8%、食品関係研究職経験者では「輸入食品」とする人の割合が47.6%と高かった。医療・教育食経験者では、他と比較して「食品添加物」とする人が多かった。

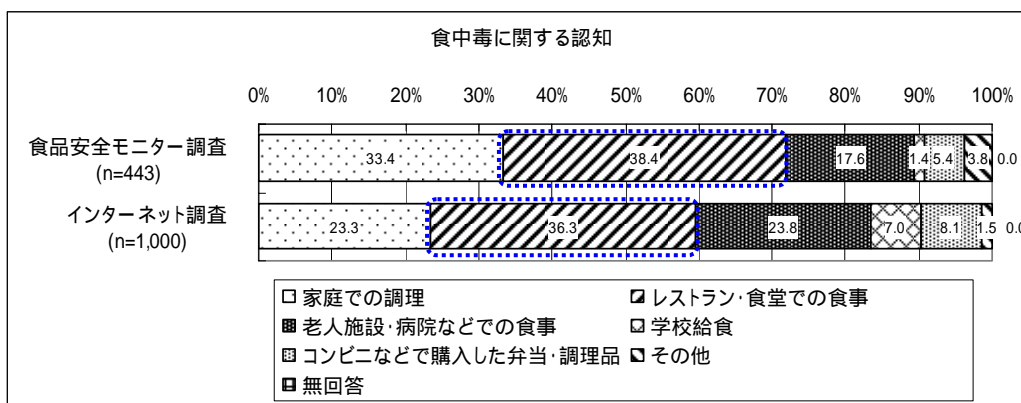


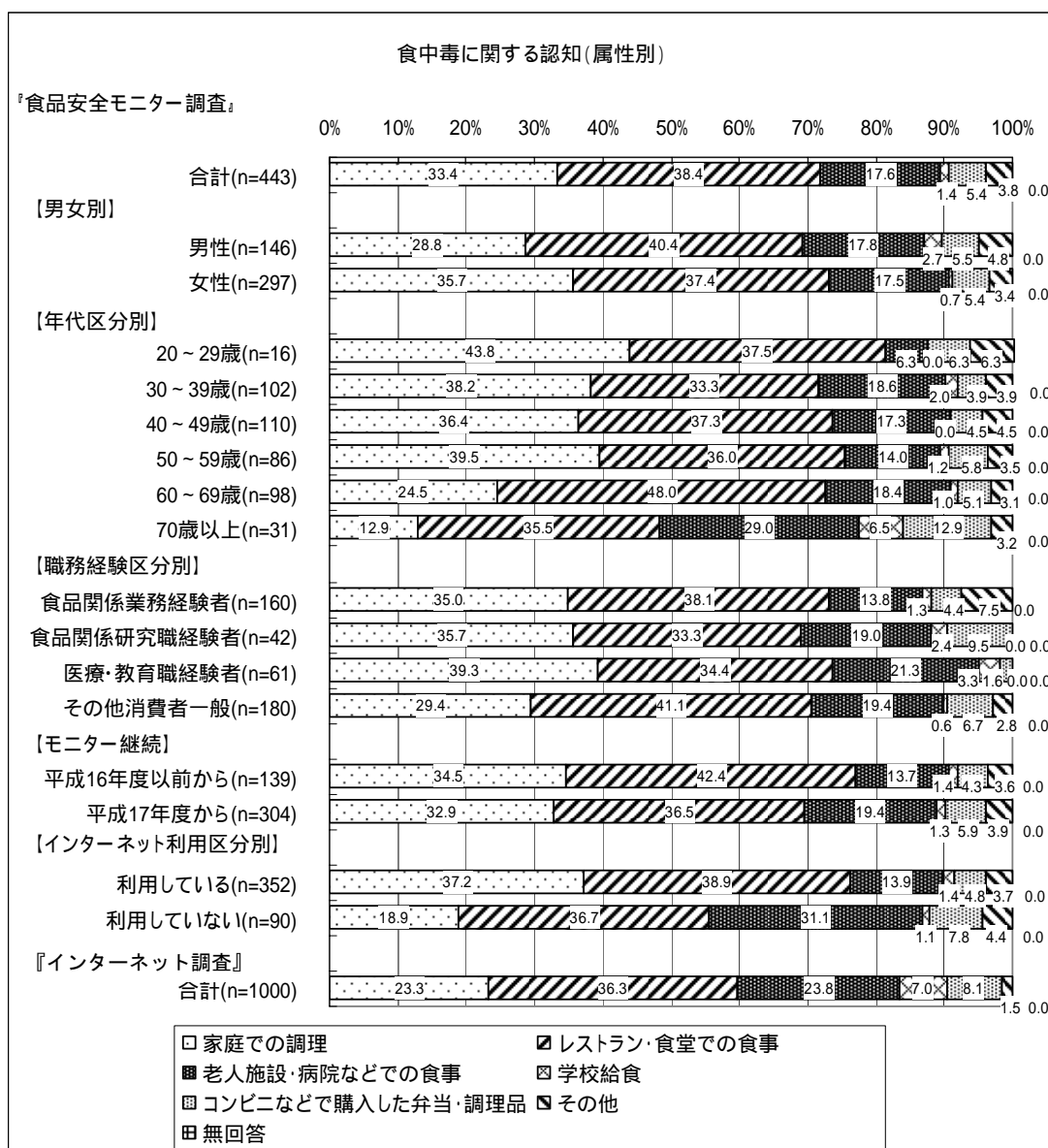
⑥ 食中毒に関する認知

問8 あなたは、我が国で食中毒が発生する場面として多いのは、次のうちどれだと思いますか。(1つ選択)

◆ 食品安全モニター調査、インターネット調査共に、4割弱の人が「レストラン・食堂」において食中毒が多く発生していると認知

食中毒の発生が多いと思っている場面は、食品安全モニター調査、インターネット調査共に、「レストラン・食堂での食事」とする人の割合がそれぞれ 38.4%、36.3%と最も高かった。食品安全モニター調査では、次いで「家庭での調理」(33.4%)、「老人施設・病院などでの食事」(17.6%)、インターネット調査では「老人施設・病院などでの食事」(23.8%)、「家庭での調理」(23.3%)と続く。



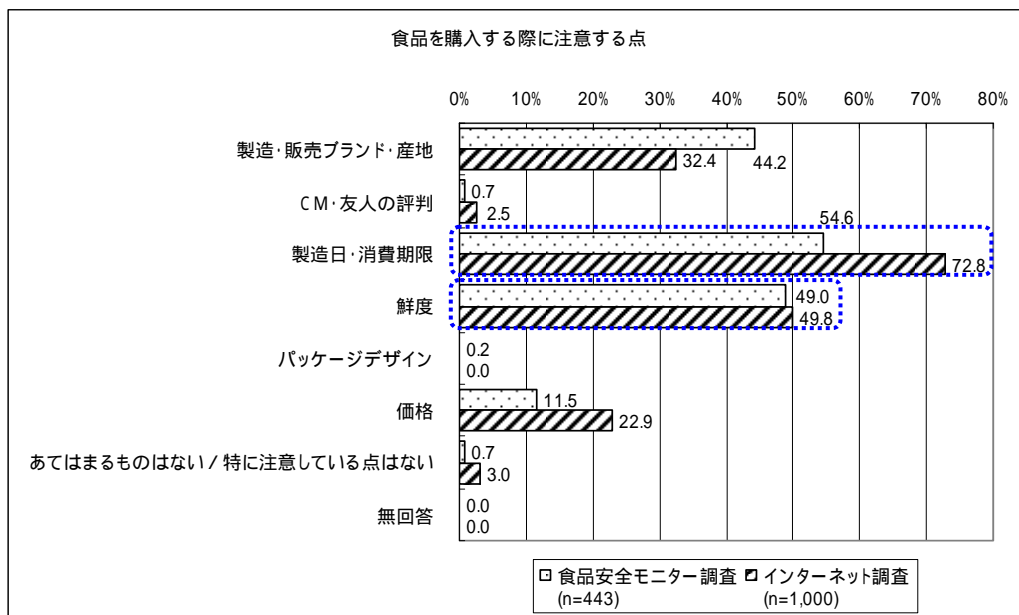


⑦ 食品を購入する際に注意する点

問9 以下の項目のうち、あなたが食品を購入する際に注意している点があれば選んでください。(2個以内選択)

- ◆ 食品を購入する際に注意する点は、食品安全モニター調査で5割強、インターネット調査で7割強が、「製造日・消費期限」を選択

食品を購入している際に注意している点としては、食品安全モニター調査、インターネット調査共に、「製造日・消費期限」とする人の割合がそれぞれ54.6%、72.8%と最も高かった。食品安全モニター調査では、次いで、「鮮度」(49.0%)、「製造・販売ブランド・産地」(44.2%)、インターネット調査でも同じく「鮮度」(49.8%)、「製造・販売ブランド・産地」(32.4%)の順となった。



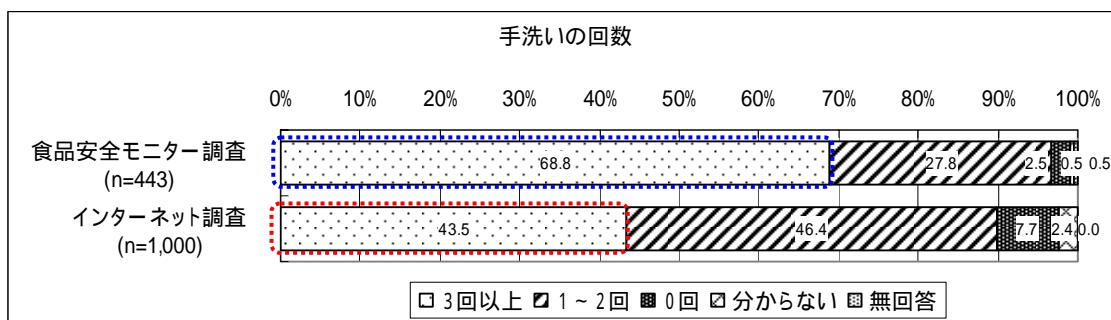
		全体	製造・販売ブランド・産地	CM・友人の評判	製造日・消費期限	鮮度	パッケージデザイン	価格	あてはまるものはない/特に注意している点はない	無回答	
食品安全モニター	合計	443	44.2	0.7	54.6	49.0	0.2	11.5	0.7	0.0	
	性別	男性	146	34.9	1.4	63.0	41.8	0.7	15.8	0.7	0.0
		女性	297	48.8	0.3	50.5	52.5	0.0	9.4	0.7	0.0
	年齢	20～29歳	16	31.3	0.0	56.3	62.5	0.0	31.3	0.0	0.0
		30～39歳	102	36.3	0.0	54.9	49.0	1.0	13.7	0.0	0.0
		40～49歳	110	54.5	0.0	47.3	45.5	0.0	5.5	0.9	0.0
		50～59歳	86	40.7	1.2	54.7	57.0	0.0	9.3	1.2	0.0
		60～69歳	98	52.0	2.0	57.1	49.0	0.0	13.3	1.0	0.0
	70歳以上	31	25.8	0.0	71.0	32.3	0.0	16.1	0.0	0.0	
	職務経験	食品関係業務経験者	160	40.0	0.6	58.8	44.4	0.6	13.8	1.9	0.0
		食品関係研究職経験者	42	42.9	2.4	66.7	38.1	0.0	7.1	0.0	0.0
		医療・教育職経験者	61	54.1	0.0	47.5	49.2	0.0	11.5	0.0	0.0
		その他消費者一般	180	45.0	0.6	50.6	55.6	0.0	10.6	0.0	0.0
	モニター継続	平成16年度以前から	139	50.4	0.7	55.4	42.4	0.0	12.2	0.0	0.0
		平成17年度から	304	41.4	0.7	54.3	52.0	0.3	11.2	1.0	0.0
	インターネット利用区分	利用している	352	44.3	0.3	54.8	48.0	0.3	11.9	0.6	0.0
		利用していない	90	43.3	2.2	54.4	52.2	0.0	10.0	1.1	0.0
インターネット集計結果 合計		1000	32.4	2.5	72.8	49.8	0.0	22.9	3.0	0.0	

⑧ 手洗いの回数

問10 昨日、あなたは何回、(石けん等で)手を洗いましたか。(1つ選択)

- ◆ 食品安全モニター調査の7割弱の人が、3回以上、手洗いを実施しているが、インターネット調査結果と大きな差

手洗いの回数について、「3回以上」とする回答割合は、食品安全モニター調査では68.8%、インターネット調査では43.5%であった。



⑪ 調理済み食品の取扱

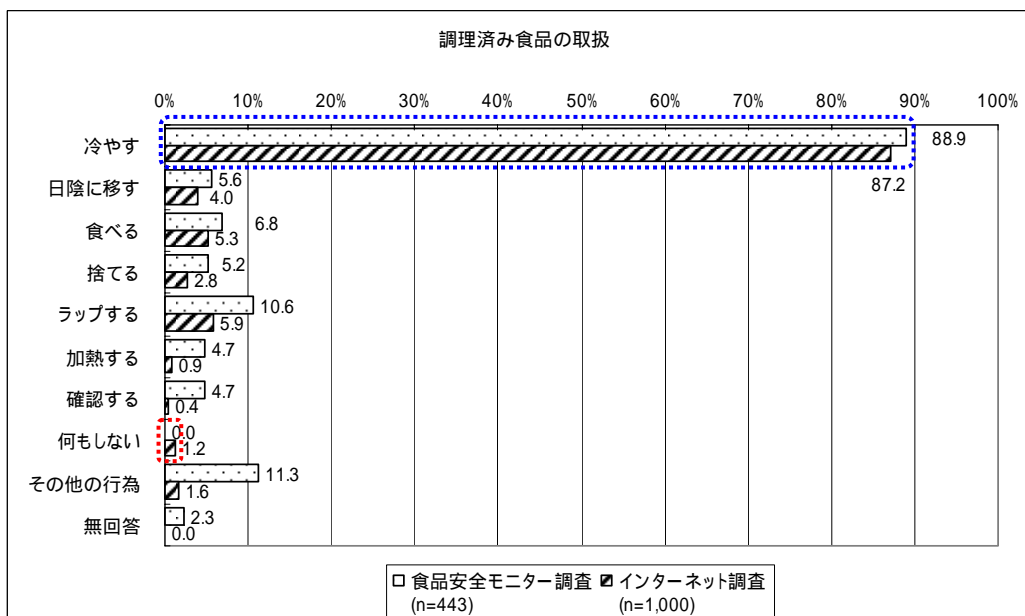
問 11 以下のような場面を想像してください。

「夏の天気の良い日の午後2時頃、あなたは、日当たりの良いキッチンで、買ってきた調理済み食品を、日なたのテーブルの上に置いたとします。10分後の午後2時15分には、家を出て駅前に向かわなければいけません。」

さて、あなたは出かける前に、どんな事をしますか。1つ、書いてください。

◆ 調理済み食品の取扱は、食品安全モニター調査、インターネット調査共に、9割弱の人が、調理済み食品を冷やして保存

調理済み食品の取扱は、食品安全モニター調査、インターネット調査共に、冷蔵庫などにて「冷やして」保存すると答えた人の割合がそれぞれ88.9%、87.2%と最も高かった。

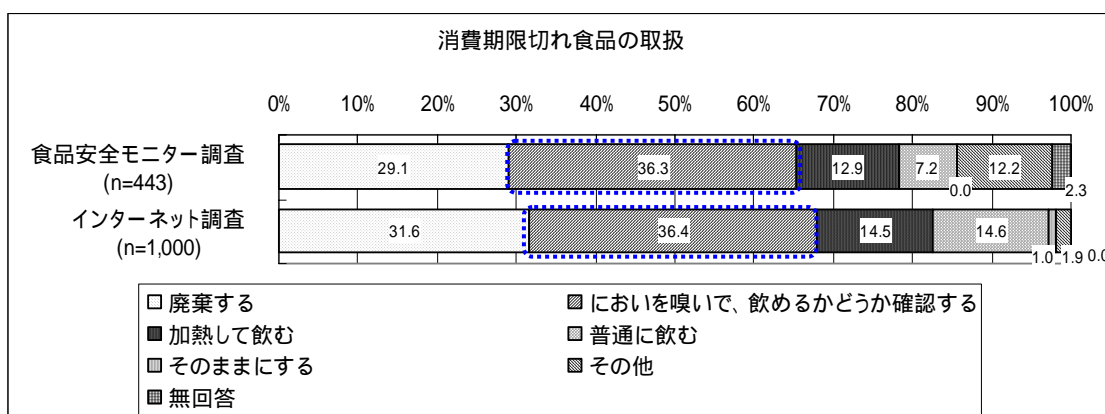


⑫ 消費期限切れ食品の取扱

問 12 6月の下旬、冷蔵庫を開けると、扉裏のポケットに飲みかけの牛乳パックがありました。消費期限は一昨日までです。あなたは、この牛乳を、まずどうしますか。(1つ選択)

- ◆ 消費期限切れ食品の取扱では、「においを嗅いで、飲めるかどうか確認する」とする人の割合が、食品安全モニター調査、インターネット調査共に4割弱

消費期限切れ食品の取扱では、食品安全モニター調査、インターネット調査共に、「においを嗅いで、飲めるかどうか確認する」とする人の割合がそれぞれ36.3%、36.4%と最も高かった。食品安全モニター調査では、次いで「廃棄する」(29.1%)、「加熱して飲む」(12.9%)、インターネット調査では「廃棄する」(31.6%)、「普通に飲む」(14.6%)と続く。



2) 食品安全モニター活動関係

① 食品の安全性に関する情報の伝達

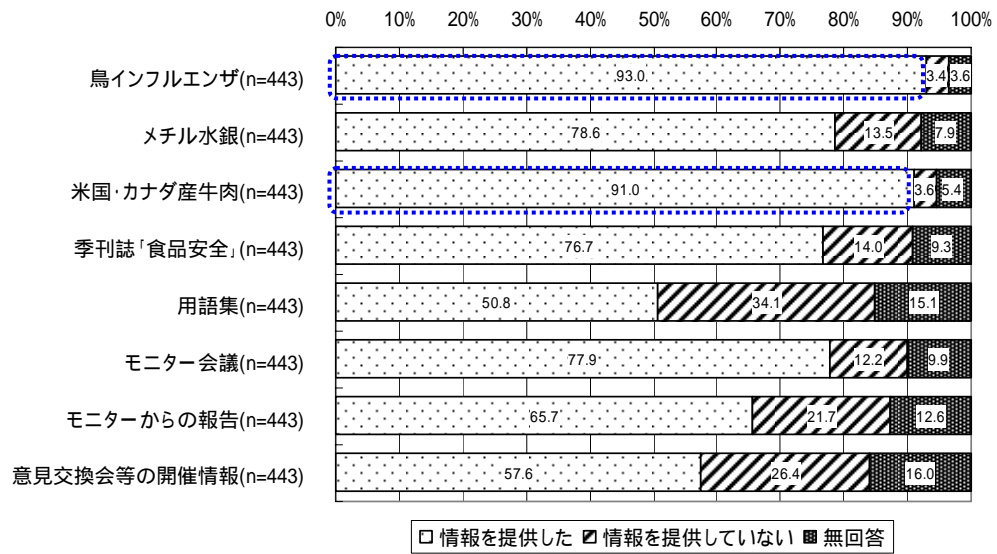
問 13 食品安全委員会では、これまで食品安全モニターの皆様に食品の安全性に関する情報を提供させていただきました。これらの情報について、広く周囲の方々に伝えていただくよう御協力をお願いしているところですが、あなたはそのような方に伝えていただけましたか。以下にあげる主な提供情報ごとに次の選択肢の中から該当するすべての番号にをつけてください。

- ◆ 鳥インフルエンザ、米国・カナダ産牛肉については、9割強の人が情報を提供

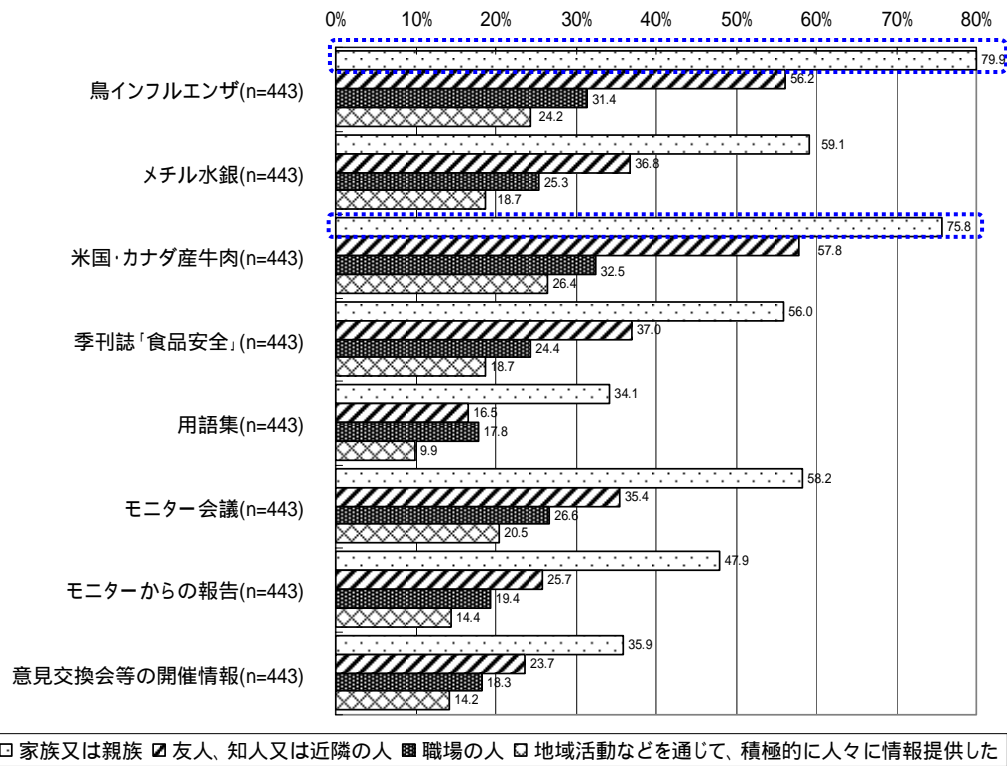
「家族又は親族」、「友人、知人又は近隣の人」、「職場の人」、「地域活動などを通じて、積極的に人々に情報提供した」のいずれかを選択した人を、「情報提供した」と区分し、その割合を見ると、「鳥インフルエンザ」、「米国・カナダ産牛肉」がそれぞれ、93.0%、91.0%と高くなった。

「鳥インフルエンザ」、「米国・カナダ産牛肉」について、「家族又は親族」に情報を提供している人は多く、それぞれ79.9%、75.8%であった。

食品の安全性に関する情報の伝達 (情報提供の有無)



食品の安全性に関する情報の伝達 (情報提供先)



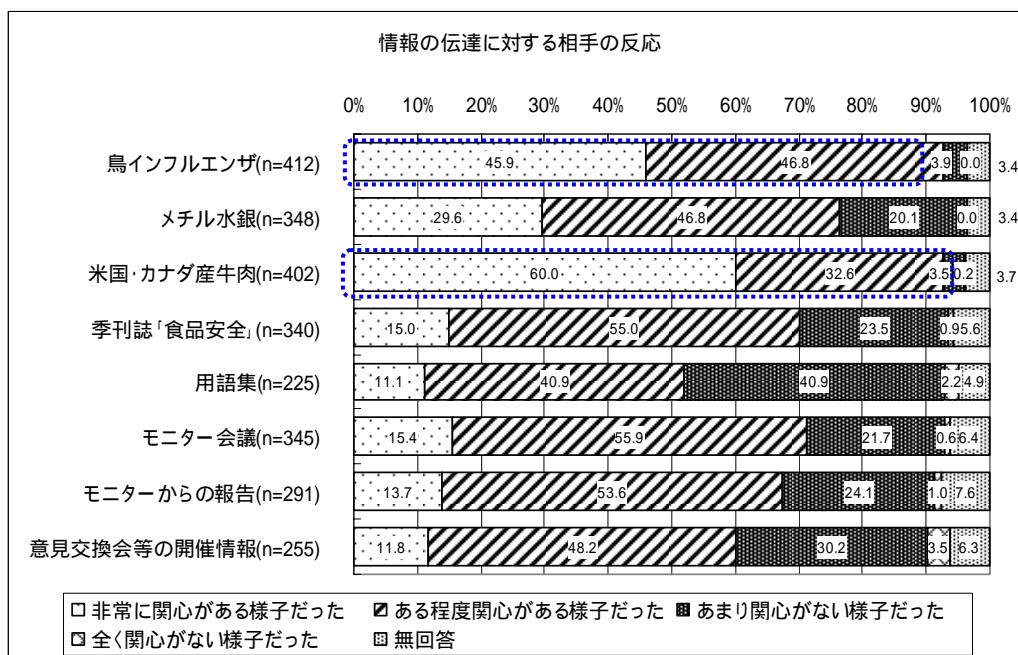
② 情報の伝達に対する相手の反応

問 14 問 13 において、いずれかの情報を、どなたかにお伝えいただいた方（選択肢の から のいずれかを選択された方）にお聞きします。
 情報をお伝えいただいた際、相手の反応はいかがでしたか。問 13 にあげる主な提供情報ごとに次の中から一つ選んでください。

◆ 情報の伝達に対する相手の反応は、鳥インフルエンザ、米国・カナダ産牛肉で高い関心

「非常に関心がある様子だった」とする回答割合は、「米国・カナダ産牛肉」で 60.0% と最も高かった。次いで、「鳥インフルエンザ」(45.9%)、「メチル水銀」(29.6%) と続く。

さらに、「ある程度関心がある様子だった」とする人を加えると、「鳥インフルエンザ」では 92.7%、「米国・カナダ産牛肉」では 92.6%であった。



③ 説明した状況と相手の安心(理解)度

問 15 問 13 において、いずれかの情報を、どなたかにお伝えいただいた方(選択肢の から のいずれかを選択された方)にお聞きします。
一例として、どのような方に、どのような場面で説明を行い、相手にはどういう理由で安心(理解)してもらえた、又は安心(理解)してもらえなかったか、簡潔に記入してください。

◆ 職場でのミーティングや雑談時、家庭での食事中、TV 視聴中などに、食品の安全性について説明を行っている。

問 13 で「 家族又は親族」とした人は、食の安全に関わることであるためか、食事中に説明するという回答が多く見られた。また、テレビ等のニュース報道を見ているときに説明するという回答も多く見られた。

問 13 で「 友人、知人又は近隣の人」とした人は、スーパーでの買い物中やサークルなどの集会時の会話の中で、説明したという回答が見られた。

問 13 で「 職場の人」とした人は、職場での情報共有や講義・講演での利用という答えが見られた。特に、資料を利用して説明したという回答が多く見られた。

問 13 で「 地域活動などを通じて、積極的に人々に情報提供した」とした人は、町内会や生協等での講演で利用したという答えが見られた。また、食生活改善推進員などの指導に利用しているという答えも見られた。

また、全体として、資料を使うことにより安心や安全性の理解につながったという答えが多かったが、文章が多い資料よりも図が多い視覚的なものの方が、理解してもらいやすいという意見も見られた。

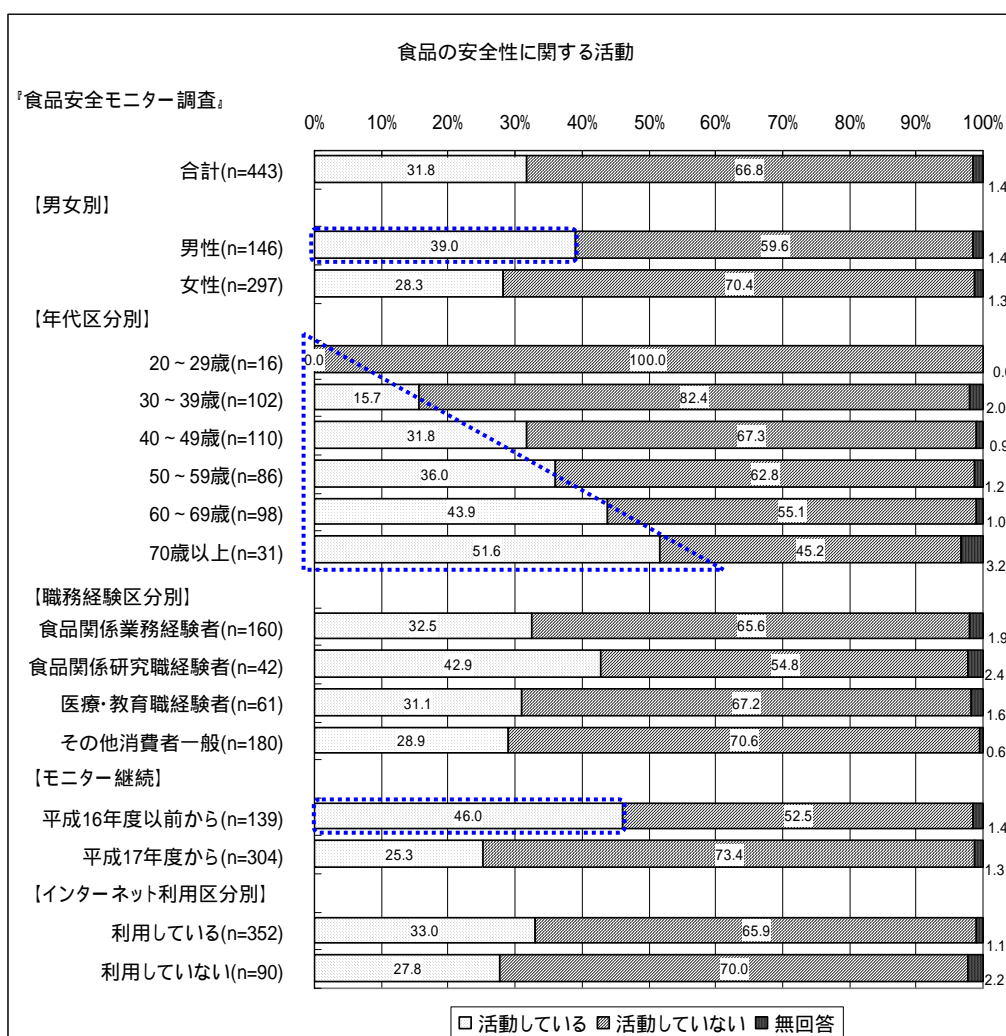
安心(理解)してもらえなかった理由としては、説明の方法による問題ではなく、食品の安全性に関わる政治や行政に対する不信感が大きいという答えが多かった。

④ 食品の安全性に関する活動

問 16 あなたは、地域や各種団体等(自治会や NPO 法人等)において、現在、食品の安全性に関する活動をされていますか。次の中から一つ選んでください。

◆ 食品の安全性に関する活動をしている人が 3 割強

31.8%の食品安全モニターが、地域や各種団体等(自治会や NPO 法人等)において、現在、食品の安全性に関する活動をしている。男女別では、「男性」の方が活動している割合が高くなった(39.0%)。また、年代区分別では、「20~29 歳」では、0.0%であるが、年代が上がるにつれ、活動している人の割合が増加し、「70 歳以上」では、51.6%と高くなった。



⑤ 食品の安全性に関する活動内容

問 17 問 16 において、「活動している」を選択された方にお聞きします。回答については、差し支えない範囲で結構です。

- (1) その活動の内容等について、記入してください。
- (2) 活動において、食品安全モニターの活動が役に立ちましたか。次の中から一つ選んでください。

(1)活動内容

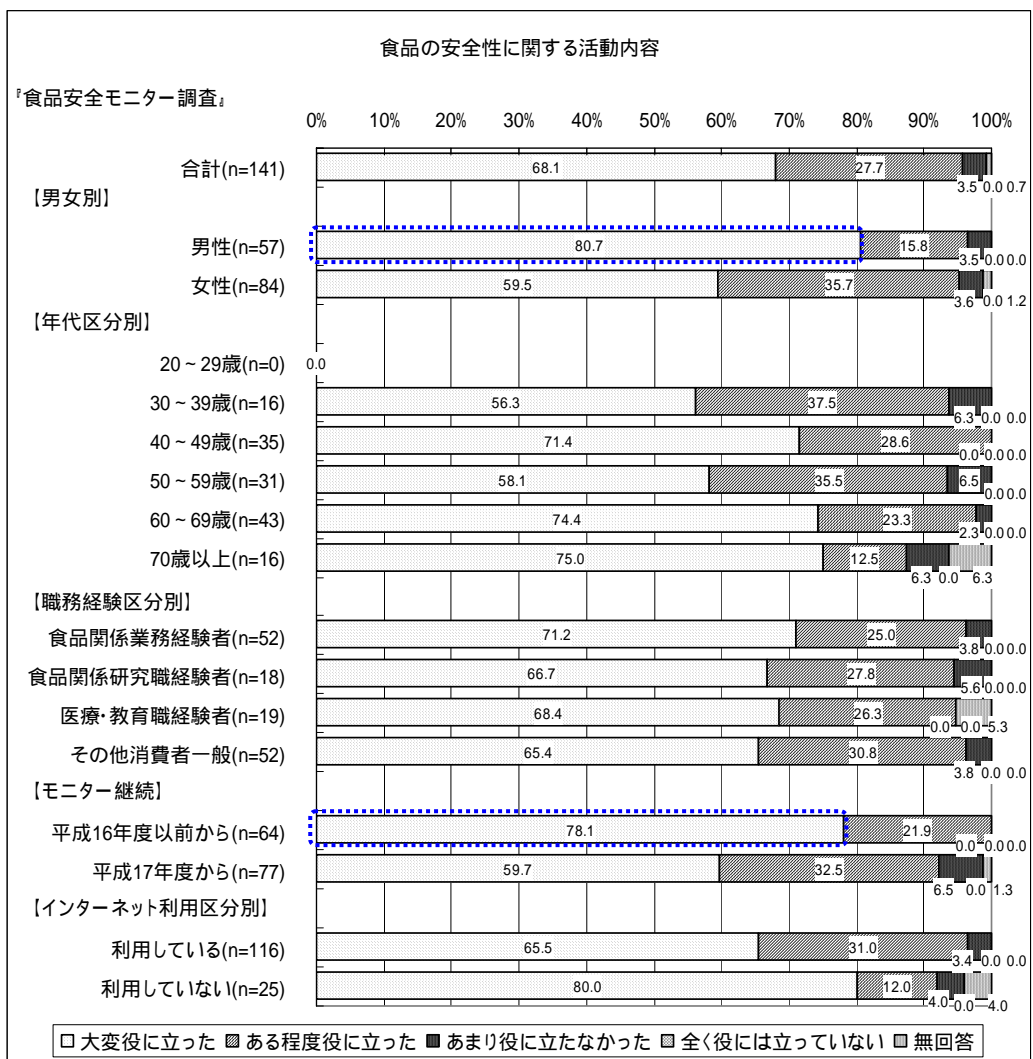
活動内容としては、NPO 法人、生活協同組合、食品衛生推進員、食品衛生モニター、食料品表示ウォッチャー、消費生活アドバイザー、食生活改善推進委員、料理教室、婦人会、老人会、自治会、朝市会、学校給食の地産地消の会、ボランティアサークル等の回答が見られた。

(2) 食品安全モニターの活動の貢献度

◆ 食品の安全性に関する活動をしている人のうち、9割強の人が、食品安全モニターの活動が役立っていると回答

食品安全性に関する活動をしている人のうち、「大変役に立った」とする回答割合が68.1%であった。さらに、「ある程度役に立った」とする人を加えると、95.8%であった。

男女別では、「男性」のほうが「大変役に立った」と答えた人の割合が80.7%と高くなった。また、モニター継続別では、「平成16年度以前から」と答えた人の割合が78.1%と高くなった。



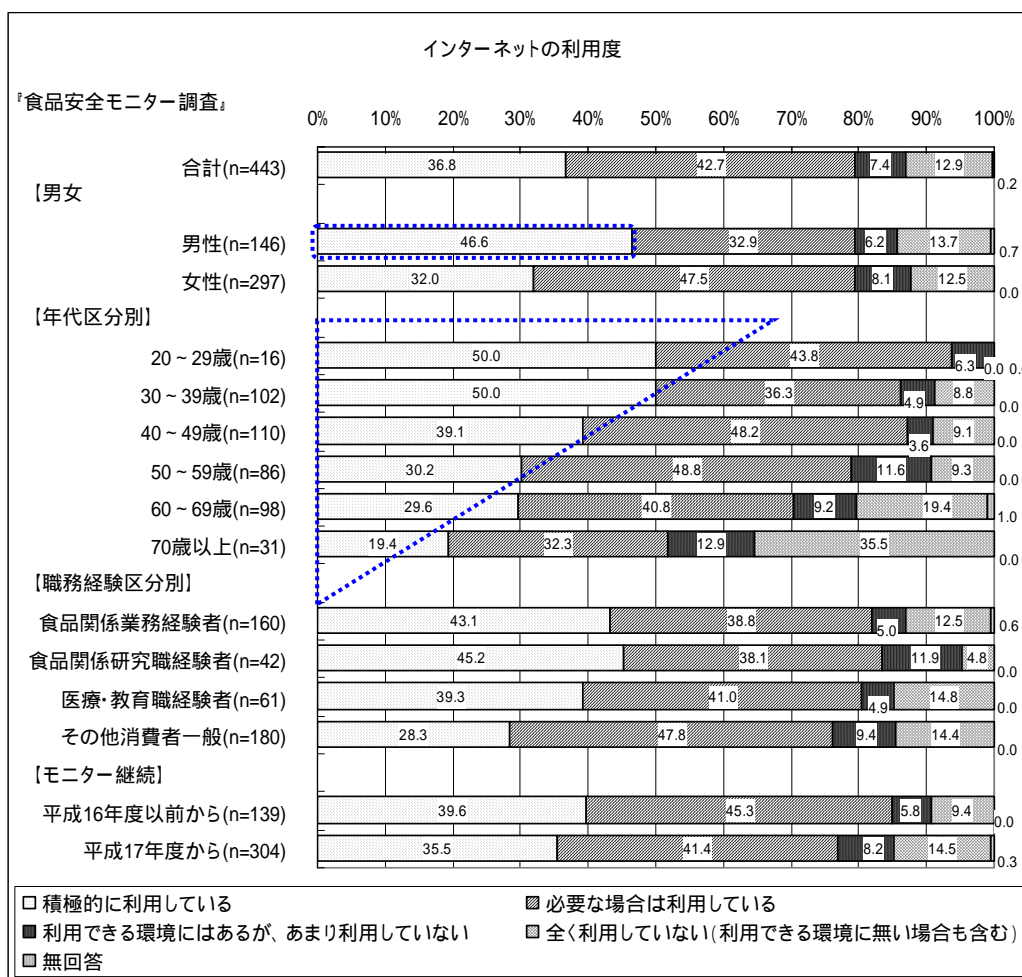
⑥ インターネットの利用度

問 18 あなたは、日ごろから情報収集のためにインターネットをどの程度利用していますか。次の中から一つ選んでください。

◆ 8割の人がインターネットを利用して情報を収集

インターネットの利用度は、「積極的に利用している」とする回答割合が 36.8%、「必要な場合は利用している」とする回答割合が 42.7%であった。それに対し、「あまり利用していない」とする回答割合が 7.4%、「全く利用していない」とする回答割合が 12.9%であった。

男女別では、「男性」の方が「積極的に利用している」人の割合が 46.6%と高くなった。また、年代区分別では、「20～29歳」、「30～39歳」では、50.0%と高くなったが、年代が上がるにつれ割合が減少し、「70歳以上」では、19.4%と低くなった。



【自由記述回答】

問15 問13において、いずれかの情報を、どなたかにお伝えいただいた方（選択肢の から のいずれかを選択された方）にお聞きます。
 一例として、どのような方に、どのような場面で説明を行い、相手にはどういう理由で安心（理解）してもらえた、又は安心（理解）してもらえなかったか、簡潔に記入してください。

(1) 家族又は親族

職務経験	性別	年齢	回答
食品関係業務 経験者	男性	30～39歳	妻に、スーパーの鮮魚売場でマグロやキンメダイの刺身を手にとって汚染物質について説明。リスク集団は胎児であってしかも普通に食べる分には影響は軽微と言っても、「そういった話があること自体不安を煽る」と、理解してもらえず。
		50～59歳	妻と一緒にTVのニュースを見ながら米国・カナダ産牛肉の輸入問題について話し合う。牛肉に対するアメリカの国内事情を説明すると、そのずさんさに不安を感じた様だった。 家内に食品安全モニター会議出席した様子を話し、国が食品安全に非常に力を入れ取り組んでいる事を話し、安心してくれた。
		60～69歳	初めて聞く言葉に関心があり、安心しているようです。BSEは報道のしすぎだそうです。 家内に食事中に米国牛解禁の話をしたがアメリカの国は信用できない、と理解してくれなかった。
			鳥インフルエンザについて家族に、食事中に、内容を良く説明したので、理解してもらえた。 まず妻に話す。見せる。
			70歳以上
	女性	20～29歳	田舎へ帰省時に、出産後の妹にメチル水銀の許容摂取量について説明し、普段の生活において許容量を超えて摂取する可能性がないことから安心してもらえた。 家庭で食事を食べながら話をして資料を後で見てもらった。それについて議論した。
		30～39歳	家族にはマスコミの情報が流れている場面で、(鳥インフルエンザの場合)人に感染するリスクは少ない、卵を食べてはいけない等は問題ないという事を伝え、安心してもらえました。 季刊誌「食品安全」を家族に見せながら説明すると、図や表があり、見やすいことから理解しやすかったようです。 米国産牛肉の輸入について夫と義母に対し、マスコミで報道されていることの正誤を話した。公的な機関からの情報という理由で信じてくれたようだった。しかしその後の米国のミスの結果、現在は不信感があるようだ。 私の知っている限りの言葉でわかりやすく、季刊誌などを利用して説明をした。
			親族一同が集まる場において、BSEのリスク評価の結論について説明したが、難しすぎて理解できない方や、国産品に対する信頼性が高い事からアメリカ・カナダ産牛肉に関して、安心はしてもらえなかった。
			40～49歳

職務経歴	性別	年齢	回答	
		50～59歳	米国・カナダ産牛肉についての情報を家族に読んでもらった。理解に関しては？という感想でした。 夕食の時、家で米国産の牛肉の輸入開始については、日本向けの検査対応がいいかげんな為充分行われるかどうか安心できないといわれた。	
		60～69歳	マグロをよく食べる娘に、メチル水銀を含んでいるため、週何回とか食べる量の制限が妊婦に設定されたことを伝え、よく理解してもらえた。	
食品関係研究 職経験者	男性	40～49歳	輸入牛肉の問題について家族に説明したが、何故あのような残念な結果になったのか、理解できないようだった。	
		60～69歳	夕食後に家内に資料をみせて話し、理解はしたようです	
			食卓での雑談として家族に説明し、概略は理解できたようだった。	
			家でテレビなどのニュースを見た時、話をして安心してもらっている。	
	70歳以上	家族が集まった時、質問された時、		
	女性	30～39歳	夫に家の中で鳥インフルエンザについて説明をし、専門用語がわからなく、理解しづらかった様子。 家庭内に、食事の際に会話する。	
		40～49歳	家族に、TVのニュースなどを見ていたとき、食品安全委員会ではこんなことをしていると説明、「ふーん」という反応	
50～59歳		鳥インフルエンザについて肉親が中国出張に行くので帰って来てからどう接するか心配していたので、直接感染している鳥の飼育にかかわらない限り危険性はなく、食べた鶏肉からは感染しないこと、人から人への感染の可能性は今のところない事を説明。安心したと思う。		
医療・教育職経験者	女性	30～39歳	家族には、モニター会議や季刊誌が届いた際、自分が理解できる範囲で、魚のメチル水銀や牛肉(輸入)のリスクについての考え方を説明してきた。根拠があって判断していることが伝わり、必要以上に不安になっていないと感じられた。職場では季刊誌を読んでもらったりしている。 親族に新聞の記事に載っていた内容(鳥インフルエンザ)と照らしあわせ説明する。理解してもらえた。	
		40～49歳	一緒に食事を食べている時に、話題として、鳥インフルエンザ等の話をしました。私自身が知っている限られた情報ではありましたが、「知らなかった。教えてもらってよかった」と言われました。 牛肉輸入再開はブッシュ来日に合わせて行われた政治問題だったので、モニターの意味があるのかと言われた。 子供に食事中伝えました。あまり関心がないため、理解しているかどうかはわかりませんでした。 一緒に住んでいる家族に夕食時に話をしました。	
			50～59歳	義弟が出張で頻繁に海外へ行くので鳥インフルエンザを心配。会社は全く心配しておらず、データもない、とのことだったので、食品安全委員会のホームページを伝えた。公式発表だからと不安は残った。 家族で夕食を食べているときに話しをしました。情報源が、食品安全委員会や新聞の記事(かたすみにある小さなものほど驚くことが書かれている)なので理解してもらえたと思う
			60～69歳	家族の食事作り、特に孫(2歳)の食べる食材について、娘に説明しました。知識を深める必要性を感じたと思います。
		その他消費者 一般	男性	20～29歳
60～69歳	妻娘、夕食の時、鶏肉、牛肉、魚については外国産は不安で買っていない。国産のみしか買っていない。食べたくない。			
70歳以上	親せきと電話があったさい、情報として伝え理解してもらった。			
	女性	20～29歳	まず、夫に報告。最初はあまり関心なかったが、いろいろな情報が報告・メールが届くので関心をもつようになった。次に、私の母に報告。母は製造業に勤務しているので、とても関心をもって理解してもらえました。 家族とのだんらんの中で話しをしました。ほぼ理解してもらえたと思います。	

職務経験	性別	年齢	回答
			家族に夕食時に話し、食物連鎖を理由に(中高生の知識)で理解された(メチル水銀について)
		30～39歳	<p>夫に、ちょっと話題になった時に説明したが、夫自身、食の安全を考えた事もない人間なため、関心が低すぎて理解されなかった。</p> <p>家族との食事時の話題の一つとして説明をしているが、人体に及ぼす食品など過去の例からもあるように、実際に被害が認められないと行政が正式に認めなかった事が多々あるので心から安心できないとのこと。</p> <p>鳥インフルエンザは、TVで放送(ニュース)中に家族に説明したが、内容が難しく、関心は非常にありましたが、あまり理解してもらえなかった。</p> <p>米国、カナダ産牛肉について、家族(夫)にテレビのニュースを見ている時に説明したところ、安全委員会の見解ならば、ということで、理解してもらえた。</p> <p>家族の夕食の場でごはんを食べながら話した。新聞やTVニュースでも見ているので納得していた。</p> <p>夫(調理師)に、家での食事中等に話題とした。仕入れに影響し(鶏肉・牛肉)、メニュー変更もあったので、仕事に関する情報として、話題を共有する事ができた。</p> <p>実父母に帰省の際にの食事中に説明を行い、マスコミによる報道と重複するという理由で安心してもらえた。</p> <p>食事のときに夫や子供に話したが、夫は理解していたようですが、子供はあまり不安になると困るので、きちんと説明しませんでした。</p> <p>家族にモニターの報告書を見せ、意見交換をした。</p> <p>家族に夕食時に、情報を伝え安心してもらった。</p> <p>ニュースで話題になっている時に、家族に説明をした。鳥インフルエンザについては流行国へ行かないようにして、死んだ鳥に近づかなければ良いということで理解を得たが BSE に関しては、何を以て安全といえるのか、私自身もそうであるが理解してもらえなかった。</p> <p>TV、新聞を一緒にみながら、家族に米・カナダ産牛肉の評価基準などを説明した。理解はしてもらったが、基準には納得していない様子だった。</p> <p>私が妊婦だったので水銀の話を中心にし、説明した。安心したかは？</p> <p>母に家庭で、BSE の牛肉輸入再開について話合った。日本でリスク評価を行い、同じプログラムを行えば、米国との輸入牛肉とのリスクが非常に小さいことを話した。ハンバーグやソーセージなど(輸入でないが)安心して買っていた。</p> <p>TVのニュースを見ながら、米国産牛肉のリスクについて話した。全頭検査がベストとの事。</p> <p>家族と食事の際に、狂牛病や鳥インフルエンザにかかる危険性について説明をして(人から人への感染がないなど)食の安全への意識向上につながったと思う。</p> <p>家庭で主人や子供に米国・カナダ産牛肉は危険部位を取りのぞけば心配ないということの説明し理解してもらえた。</p> <p>両親がTVの報道を見て、食肉(鶏、牛)を食べるのが怖いと言ったので、鳥インフルエンザと鶏肉は別けて考えて良いと伝え、「正しい方法で、調理し、食す場合」心配ない事を理解してもらった。</p> <p>外食時にお肉の話題になり家庭での選び方や狂牛病に対する知識が深められたと言われた。</p> <p>2歳半の子をもつ姉に伝え今後子供に与える食べ物を気をつけなければいけないといわれました</p> <p>主人が帰宅して夕飯時にモニター会議での様子・説明を簡単に話すと、「ふ～ん」と食品安全委員会の活動やモニターの食に対する姿勢を初めて知ったという風に相づちを打っていました。</p> <p>今、BSE問題がテレビでもよく目にする機会があるので、主人に話しました。国産牛の方が全頭検査することを伝えたら、「やっぱり値段は高くても安心な肉を食べないとなあ」と言っていました。</p> <p>鳥インフルエンザの情報を家庭で夫に伝え、大学教員である夫が学生に説明をした。加熱した肉、卵は安全であることを理解してもらえた。</p> <p>鳥インフルエンザについては、以前義母と話をしたのですが、簡潔に”人間には作用しないウイルスなので大丈夫ですよ。でも火はちゃんと通した方がいいですね”と説明しました。理解してもらえました。普段から、専門用語をあまり使わずに話すようにしています。</p>

職務経験	性別	年齢	回答
		40～49歳	<p>米国産牛肉輸入再開のころ、家族に「外食では表示がないので、当分外食で牛肉を食べないほうがいい」と伝えた。小学生の子供は外食でハンバーグを食べたが、納得してあきらめた。</p> <p>家族にニュースや新聞などで食品に関する情報があつた時に、よりわかりやすく自分の知識の範囲で注意点を簡素的に話をした。例えば、卵は火を通せば安全で今のところ人から人への感染はない。牛肉も完全に火を通す。</p> <p>主に夫にニュースなどの報道の際に付け加える様な感じで話をする。理解はしてもらえすが新たな疑問が生まれたりもする。</p> <p>子供達に鶏肉を食べたからといって鳥インフルエンザになる訳ではない…と。</p> <p>主人がホテルで調理しているので、家に帰ってきてから資料を見せました。資料に、具体的に記述されていたので理解できたようです。職場では、休憩時間に資料を見たり、季刊誌を見たり、一緒に話をしました。内容もわかりやすく理解できたようです。</p> <p>私の母は都の在宅栄養士をしており、講座をうけてもっている。例えば、のメチル水銀は「妊婦の食事献立」の際に、の鳥インフルエンザは、「高脂血症、骨粗しょう症など」の際に資料を提供した。最新のニュース、データにありがたいがられている。また、彼女が厚生省から聞く話も教えてもらっている。</p> <p>子供たちにニュース等の報道の直後に補助的に説明を行うと、より身近に感じるようで安心してもらえた。</p> <p>義母や母(70代の人)に鳥インフルエンザにかかったトリ肉を万が一食べてしまったとき、身体におよぼす影響はほとんどない、ということの説明しても、わかってもらえなかった。ただ、ただ「そんなことがおきたらこわい」という反応だった。</p> <p>家族には、情報がきたものは、プリント等含めホームページなど全て見せ、話し合ったりした。安全委員会はこんなにかんがっているんだということや、いろんな意見を幅広く聞き、調べているので安心してもらい、たとえばBSE再開も納得していた</p> <p>添加物などに漠然とした不安をもっている義母に、モニター会議で聞いた「ADI」について話しました。いくつもの試験が行われ、安全係数も大きくかけられているということを判りやすく話すと、ずいぶん安心したようでした。</p> <p>身内のものに米国カナダ産牛肉について日常の会話の中で説明した。食品安全委員会から送られてくる色々な資料を(モニター報告は除く)見ながら説明できたのでわかりやすく理解できた。</p> <p>食卓を囲んでいる時に、その食材について知っている情報(食品安全委員会から得た)を話題にし、不安をあおらず、かといって過信もしないように客観的な事実を伝えるようにした。</p> <p>実家が飲食関係の仕事をしているので、使用している材料、食材について話し合った。普段から、地元産の食品を使用しているが、知っておくべき情報だということで、非常に参考になったとのこと。</p> <p>家族に囲らしている時に、話した。鳥インフルエンザの状況や広がり方などを説明した。ある程度理解してもらえた。</p> <p>主人にTVで関連したNEWSを見ていた時に説明した。自分の中でうろおぼえて上手に説明できず、理解してもらえなかった。</p> <p>鳥インフルエンザについて家族で食事をしている時、鳥肉を加熱して食べることで鳥インフルエンザに感染することはないと説明しました。理解してもらえたようでした。</p> <p>妊婦だった家族の者から、TV等で取り上げられていて、真意の程はどうかと聞かれ、食品安全委員会のホームページや季刊誌等で詳しく調べ、理解してもらえた。(必要以上に制限し、不安になることはない旨を伝えた)</p> <p>家族で居間に座っている時、両親にメチル水銀が魚介類に含まれている事を話したら、安心する・しない又は、理解する・しないというよりも、それはあたりまえだろうという感じで、仕方がないという雰囲気だった。</p> <p>米国産牛肉の輸入再開のニュースを見た際に、母にアメリカ産牛肉の安全性について話をしましたが、やはり不安を持っている様子で、「当分の間はアメリカ産牛肉は食べないつもり」といわれた。</p> <p>鳥インフルエンザやBSEの話題になったとき、リスク評価の考え方について夫婦で話し合った。実際にはほとんどリスクはないが消費者はちょっとでも危険があると敬遠しがちである。</p> <p>季刊誌「食品安全」NO.7キッズボックス”しっかり手洗いしていますか？”トイレの後手洗いをしなかったり、食事の前に手洗いをしなかったりする家族(主人、息子たち)に細菌の写真、“手洗いはこんなに効果的”の記事を見せ改めて”手をキチンと洗わないと汚い”ということをおぼせさせた。</p>

職務経験	性別	年齢	回答
			家族に食事中にとりインフルエンザが人間に打つ場合はどんな場合かを説明した
			家族には送られてきた資料等を見せただけで、安全委員会の方々の熱心な取り組みが伝わってきたので、それほど説明する必要はなかった。
		50～59歳	嫁いだ娘や息子の嫁に妊婦は水銀を多く含む魚介類を食べ過ぎると胎児に影響があることを電話で話し理解してもらった。 家族間はお茶の間会議の様な場面で、テレビ等の情報が流れた時などに話し、食品安全委員会からの説明というだけで、納得し、安心しているように思いました。 家族で食事中、鳥インフルエンザの話題になり、安全性の説明したところ安心してくれた。 家族が出産し、妊婦さんがベビーに会いがてら注意事項を聞きに来ました。お魚の金目鯛は、水銀含有が高いという話題から魚はダメかもと不安を抱き始めたので、2005. vol.6 のトピックスの数値参考に大量でなければ大丈夫、安全ネと安心した様子でした。 食品の安全のことが話題になった時、季刊誌「食品安全」を使って、家族に説明したり情報を伝えて理解してもらっています。 家族で団らんしている時に、資料をみせて話し合った。 魚介類に含まれるメチル水銀についてのリスク評価に関する情報で嫁や娘に肉だけでなく魚介類を食べる大切さと一緒に出産ということを考えるとマグロ等一つの魚に集中しないように伝えた。ある程度知っていたし、理解もしてくれたと思う。
		70歳以上	メチル水銀...家族(長女)、すでに内容も知っていた。 季刊誌「食品安全」...知人、よくできている。手軽に手にすることが出来れば...と。 食品安全モニター会議での情報...家族(長女)、内容高度であるがわかりやすい。

(2) 友人、知人又は近隣

職務経験	性別	年齢	回答
食品関係業務 経験者	男性	20～29歳	知人に、頂いた資料を紹介しつつ、自らの意見も加えて、よく理解してもらえてきていました。
		30～39歳	食事の話から友人にリスクの大小について話した。きわめて低いという事を話し、安心してもらえたと思う。
		40～49歳	生活のあらゆる場面で現状のBSE対策について説明し、納得のいく理解が進みました。
			妻と子にあいた時間に、とくに食事時に色々モニター活動で習んだことを話した。理解して、毎日の食生活に生かしている様です。
		50～59歳	「鳥インフルエンザ」及び「BSE」について、食する分にはさほど心配しなくても良いと説明。
			食品の表示によってより安全な食品を利用したい主婦。あまり感心の少ない主人(男性)たち
			食肉店経営の友人に米国・カナダ産牛肉についてモニター会議での情報等を伝えた。理解は深まったと思う。
		60～69歳	鳥インフルエンザ、米国カナダ産牛肉の情報を近所の友人夫婦と旅行し、夕食の時、食事をしながら(料理の賞味)食品安全委員会の取組み、対応の仕方等について話しをしたところ、ある程度理解してもらえた。
			友人であるスーパーマーケット経営者に貴会のメール情報を転送、社員教育用に活用しているとのこと。
			中華料理店のオーナーとして、店長及びお客様に食品に関する資料を話し、関心を高めて頂くよう努めているが、お客は余り関心を示さない。
知人との懇親の場(打合わせ会、同窓会、食事会等)。食の安全性を話題にし(マスコミに現れている事)、話を広げて行く。根拠を持っての説明をするから、納得が得られる。食品安全委員会といえは尚更。			
		町内会の会合の雑談の場で、日本向け米国産牛肉について、20ヶ月齢以下だから安全性が高いと話して、理解してもらえた。しかし、プログラム違反事件で信頼が損なわれてしまったようである。	
		主として米国・カナダ産牛肉についてのリスク評価に関する情報を友人・知人に対して、小集会等も含め説明。理論は理解するも、実行段階での疑念はすべての場合に存在。現時点では疑念を上塗りする結果となっている。	

職務経験	性別	年齢	回答	
		70歳以上	食品業界で一緒に仕事をする人たちの集まりで話題とした。食品安全委員会の答申は妥当で、常に個人のリスクがある。輸出国と考え方に温度差、国力差があるので、日本の国としての姿勢が大切。	
			食の安全性に就いて非常に関心を持たれた。特に輸入牛肉について関心が高かった。	
			米国・カナダ産牛肉についてのリスク評価に関する情報について友人に会合中に話した。CVS オーナーなので理解していた。行政の対応に不満があったようだ	
			季刊誌「食品安全」読後、レストランにおいてもらい、店主、客に呼んでもらった。モニター会議の情報をHPに載せた。相手の理解度はわからないが、少しは普及したと思う。	
			食事会等で友人達に米国・カナダ産牛肉の輸入に関し、BSE 対策として、平成 15 年発足後から検討しており、月齢制限、SMRの除去後の牛肉であれば発生は非常に低い事を説明し理解してもらえた。	
			一時、入院中、集団給食後の歓談の場で皆さんの家族、看護師さんなどに説明し、ある程度理解してもらったと思う。	
	女性	30～39歳	知人・友人のサークル及び会議で話題を提供した。正確な情報を提供することにより、マスコミを通して巷間に流布している情報が如何に間違っているか安心してもらえた。	
			市のシニアクラブでの会合の席で BSE について、特に国産牛の処理状況を県のパンフレットで説明 安心してもらえた。	
			魚介類に含まれるメチル水銀について、妊娠中の友人に伝えた。新聞報道ですでに知っていたが、そのネタ元の話なので、より説得力があったようだ。	
		40～49歳	鳥インフルエンザが問題になった時、鶏肉を食べるのが心配だという人に、十分加熱すれば安全だと説明をし、食べることで感染しないことが分かって安心した様です。	
			米国牛肉輸入前の会議で、安全だと聞き伝えましたが、せき柱が含まれていた事で、米国産牛肉は食べない、と言っていました。	
			スーパー等に行き物へ出かけた時やニュース等で見た時に、話題にとり入れる。	
50～59歳	米国・カナダ産牛肉に関して、スーパーで買い物をしている友人・知人に対して、BSE に対する国の対応について、説明し、又、従業員さんを交えて、どのようにされているのかの情報を提供したところ、だいぶ理解はしてもらえたと思います。			
	テニスサークルの場で BSE に関しての会話となり質問を受け、モニターとして頂いている資料や会議の内容等を参考に説明し理解し安心して頂きました。			
	社員食堂に食べにいらした方に、鳥インフルエンザについて、加熱をすれば安全ですと回答			
60～69歳	牛肉の件ですが最初安全性 OK という認識でしたが、米国から輸入された牛肉の中に背骨が入っていたりして疑問をもたれてしまった。			
	友人と話をしている時に「魚介類に含まれるメチル水銀」について話をしました。一種類の魚でなく、いろいろな種類の魚を食べた方が良いと理解しました。			
	旧職場の同僚に情報を伝えた時の反応の 1 つに次世代の子供達の健康・安全を守ること。情報を広く、わかりやすく知ってもらったりするにはどうしたらよいか等の問題提起をした。			
食品関係研究 職経験者	男性	70歳以上	女性の友人同士が集合の際、私が問題提起し、全員で討論しその後、理解して戴けたと思っています。	
			現在栄養士として勤務している人に会う機会のあるごとに情報提供しています。特に季刊誌「食品安全」は喜ばれます。また、ホームページのことも広く他の栄養士にも知らせるように伝えてあります。	
	女性	30～39歳	母校の栄養士総会で食品安全モニター会議での情報について話し、意見交換会の開催についても出席できることを話し、ある程度関心がある様子だった。	
			テレビ、本などにそういった事が放送、載っていた場合、タイミングがあった場合、相手も理解(安心)します。	
		70歳以上	BSE について、全頭検査、抜き取り検査方式について話し合ったが、米国の抜き取り検査方式が安全、安心に対して理解できなかった。	
			家族には食事の時に、友人知人には会った時に情報を話し説明し、その説明で理解してもらえた。	
		女性	30～39歳	家族にはごはん時に、友人には、読み終わった刊行物については譲渡したり、お茶をのみながら話をしたり。やはり食に関しては人それぞれこだわりがあるので、安心するとか不安がるのではなく、そういう意見もあるのかといううけとめ方。
				友人に BSE の件、米国牛輸入再開の件についてたずねられた時、食品安全委員会のデータを説明し状況を話した。しかし、米国側の管理システムにかなり違いがあるため安心してもらえなかった。

職務経歴	性別	年齢	回答	
		50～59歳	学生に栄養学の授業中に授業内容にあわせて話をするように心がけた。 友人との会食時にこちらから話題を提供し、しばらく意見交換をし、食品安全専門委員会が科学的に安全である根拠を説明してみたが、信頼度そのものが薄く理解には少し隔たりがあることを感じた。	
		60～69歳	短大の同窓会があった時、モニターをしていることを話し、BSE、鳥インフルエンザなどを伝えました。	
医療・教育職経験者	男性	60～69歳	家族・友人・知人又は近隣の人の間では、現在、大きく取り上げられている問題については、関心があり、理解を深めることができた。しかし今のモニター制度では、政府(委員会)が個人からの情報(意見)を入手することが主体で、モニターが積極的に活動する場がない(難しい)。今後、啓発活動ができるような組織作りを期待する。(たとえば各自自治体に、民生委員、人権擁護委員制度があるように…)。 親類には何かの用事で、又は家族には食事の際、知人にも何かの用事で会った際、肉を通じて体内に入ることを恐れていた。(インフルエンザ、ヤコブ病を恐れていた。)	
		70歳以上	小学校の同級会が昨年あり、その際、食品安全モニターをしていることが知っている友人から食の安全、特に鳥インフルエンザ、BSEについて説明を求められ説明し理解されたと思っている。	
	女性	20～29歳	鳥インフルエンザについて鶏肉を食した事でも感染するのではという誤った認識であった為、鶏肉自体は安全で、感染した鳥と密接した場合に危険であると友人、親族へ伝えた。	
		30～39歳	子育て中のママ達で食に関心の高い人へ、子どもを遊ばせながら根拠のないうわさだけを信じないように、安心してもらった。 医師の友人と、食に対する安全性を話し合った。(お互い子供がいるので)	
			妊娠している友人へ、妊娠中に気を付けた方が良い事を言ってあげる際に、胎児へのメチル水銀の害について説明し、理解してもらった。	
		40～49歳	友人と食事会をした時、牛肉が出たので、米国・カナダ産牛肉についてのリスク評価について説明し、理解を得た。 説明する相手が、その話題について興味を持っている場合は、一生懸命聞いてくれるが、そうでない場合は、理解してもらうのが難しいと思う。 子供の部活動の集まりで他の保護者の方と食生活の話題になった時、食品安全モニターとして得た情報を伝えると興味を持ってきてもらえ、ある程度は理解してもらえたと思う。	
		50～59歳	知人が、米国産牛肉の再開において発生した事は、米国の不手際は済まされないと共に、我国の事前調査も不十分ではなかったかと指摘したが食品安全委員会は我国の基準を前提として再開を答申、ただちに、我国の機関から調査団を派遣した上での再開であるので、落度は考えないとし、むしろ、米国が BSE 検査基準の周知徹底を怠った結果生じたことであろうとしたが、政治的解釈に落ち入りやすい件のため、十分な理解は難しかったようだ。 鳥インフルエンザ、米国・カナダ産牛肉の現状を知識の範囲内で説明し、理解はしてもらえたが、完全に安心されるものかは解らない。 米国産牛肉のニュースなど見ながら家族と話しをして安全について議論したが安全性については理解されずに(私自身も疑問だが)鳥インフルエンザについては鶏肉を食べることも危険なのかという知人の問いかけには接触しない限りは感染の危険性はないと説明し、理解は得られたようだ。 家族に食事中、親族に電話、友人にメールと電話、知人に会った時に説明した。いずれも、委員会からの情報である事を知らせたので、理解してもらえた。 友人の間で鳥インフルエンザの話が出た時、食品安全委員会の説明といっしょにトリ肉を食べても安全な理由を説明、理解してもらえたと思う。それ以後、テレビ新聞等で食品安全委員会の動きを身近に聞くことが出来るようになったと言われた。	
			60～69歳	米国・カナダ産牛肉について、家族や友人に説明したが、「疑わしい食品には絶対に近づかない」という理由で拒否された。リスクを冒してまで牛肉を食べようとは思わないと言われた。 鳥インフルエンザ、米国・カナダ産牛肉について、クラス会のような同好会にて、理解してもらえなかった。理由、お役所の態度があまりにもいいかげん。(担当大臣はもっと勉強してほしい)特に今回の牛肉問題について、相手国からの報告だけではダメ。現地にいった実情をもっと調査すべきだと思います。
				妊婦さんにメチル水銀について話し、食品安全委員会のホームページで再確認し、ある程度理解してもらえたと思う
		70歳以上	12月の牛肉輸入再開のニュースに対し本当に安心して購入し食しているのか 不安がる家族や友人に対し、<リスク評価結論>や約束事を簡単に話したが理解したように見えた	

職務経験	性別	年齢	回答
その他消費者 一般	男性	60～69歳	自宅、相手宅での懇談の場 不安を感じた様子
		70歳以上	家族ではインフルエンザの罹病の心配、魚介類は微量の薬品が累積する危険性を考える機会となった。また他の項目は庭先や野良仕事の休憩時、隣近所で集まり理解してもらった。
	女性	20～29歳	テレビニュースで鳥インフルエンザの特集を放送していた際、モニター会議で話題に出ていることを話してみたところ、興味をもって聞いてくれました。
		30～39歳	生活から切りはなせない「食」。また主婦であったり保育士(友人)という仕事柄、食中毒などの健康被害に大変関心が高い人が周囲に多いため、会話によく出てきた。(特に BSE 問題)
			スポーツジムで運動をする生活の中での食事の相談を受けた話の延長で、話題の1つとして食に興味があるという範囲で理解を得られた。
			食に関する仕事をしている仲間にメールリストを通じて情報を提供した。(理解するタイプの内容ではないので以下割愛)
			鳥インフルエンザ、BSE について日々マスコミで取り上げられているので特別な機会を設けたわけではありませんが、情報を伝えました。
			テレビ・新聞等でニュースになった時に、知人・友人会話で話題になり、不安がっていたので、安全性を説明した
			理解というよりも知ってもらえた、というくらい、資料は内容が堅く、見ようともしてもらえない。この会の名前自体が堅いので、引かれてしまう。
			家族、親族、友人、知人に、会った時、話の流れで説明。食品安全委員会からの情報、季刊誌が手元にある時は、それを見せ、ない時は、後日コピーして渡す、と理解してもらえた。
メチル水銀についての摂取量のめやすを説明したが、海外より低いのはなぜか不信に思っていた。			
同じ子育てをしている友達(お母さん)に魚介類に含まれるメチル水銀の情報を見せ、安心してもらえた。			
季刊誌を子供に見せたら興味深く読んでいましたし、子供のお友達のお母さんにも何冊かまとめて渡したら分かりやすく書いていると言う事でした。			
友人と買い物に行った折、肉の前で BSE の話題になって。			
同じ生協をとっている知人に話題が出たついでに説明し同意を得られた			
40～49歳	米国牛肉の輸入が再開された時に友人・知人・家族に安全性を話したが、不安であるし、積極的に購入したいとは思わないと理解してもらえなかった。すぐにまた輸入が禁止されたので、あまり、話さないようになってしまった。		
	家族や実家の人、友人などと一緒に食品の安全に関するニュースをや情報番組をテレビで見ている時、私が得た知識を教えて理解してもらった。		
	知人数人とのおしゃべりの時に鳥インフルエンザが話題になった。加熱すれば固まりもどらないタンパク質とウイルスは似た様なものなので、加熱すれば大丈夫言ったら納得した様だった。		
	BSE 問題について、会議に出席しての話を友人にしたけれど、「安全」といわれても輸入牛肉を食べるには不安が大きいと言われた。		
	子ども会の役員をしているので、役員会で時々、食品の安全についての雑談がはじまります。そのときに、私の持っている情報を伝えました。「科学的根拠に基づいて安全性を判断」ということに、「うわさ」で動揺していた主婦の方々は安心感を得たようです。その他、子供のはいつているサークルの親の方たちにも同じようなお話をしました。		
	子どもの友だちのお母さん方と会った時に話したが、毎日の生活の中でのことなので、けっこう興味を持って聞いてもらえました。		
	公園で、近所のお母さん友だちに、モニター会議での報告をした。 電話で、姉にモニター会議での報告をした。		
	例えば、鳥インフルエンザの件でマスコミが騒いでいる時、家族や知人に、雑談をしながら、「国の対応はこうしている、食品安全委員会ですら言っていた」と言うと、安心してもらえた		
	家族や知人等、ニュースでその方面の話題がテレビ、新聞等あるいは学校の授業で取り上げられた際に、食品安全委員会からの情報として補足的に話すと言った。皆納得して下さいました。		
	友人に茶話会、食事会などの時の話題の一つとして伝えました。食に関して興味、関心がある方達なので、ある程度の情報は知った上での話であったので、理解してもらえました。		

職務経験	性別	年齢	回答
			<p>米国・カナダ産牛肉を、子供(小学生)の同級生の親達に、お茶を飲みながら話しました。国の対策にも不信感があるようです。(特に加工品は安心できない。)</p> <p>もし、米・カナダ産牛肉が輸入された場合、消費者として、小売業の店頭での選択のむずかしさ、及び外食での選択のしにくさを具体的に言えなかったので「安心」までは伝わらなかった。</p> <p>無農薬野菜や健康食品を長年にわたり摂取している友人に、十数人が集う食事会の席で、食品安全モニター会議での情報を伝えたと、偏った情報だけで過敏になる必要はないと理解してもらえた。</p> <p>鳥インフルエンザに関して新聞などに記事として取り上げられていた時なので、より具体的に説明する形(補足)で理解してもらえた。</p> <p>子供の学校(小学校)での PTA 活動の一貫での母親委員会へ出席し、食品安全モニターであるとは言いませんでしたが、座談会で、何を話してもよい時に、鳥インフルエンザ、魚介類に含まれるメチル水銀、BSE の安全性などをひと言話しただけです。関心ある人が参加されているので、耳をかたむけてもらえました。</p> <p>友人に、ランチをしている際米国カナダ産牛肉についての情報を伝えましたが、安全性には疑問が残ってしまいました。</p> <p>BSE 問題の話が出たときに、BSE プリオンは、その 99% が特定部位に集中しているため、その部分を除去することにより、BSE プリオンのほとんどを排除することができるという事を言ったら、理解して頂けました。</p> <p>生協の配達の際に近所の主婦が 10 名程あつまり、食品の話をする機会が多いです。鳥インフルエンザや狂牛病の話も TV など不安感を持っている方がいると、私から色々説明し安心してもらっています</p> <p>BSE 問題は、安全だと資料などでは書いてあっても実際は、どうなのか、心配</p>
		50 ~ 59 歳	<p>主人や兄弟、親たち、友人に伝えました。魚介類に含まれるメチル水銀に関してはテレビの特番で見て知ってました。あるていど理解していたと思います。</p> <p>食品安全に関して、高い関心を持っている親しい友人から、土壌に含まれる農薬等の心配事を相談されました。(私がこのモニターをしているのを知っているから...)その際に、これまでの資料やモニター報告者を見せましたら、とても関心をもっていました。その後も情報を提供しています。</p> <p>今現在団体活動はしていませんが、以前消費生活モニター(市町村)をしていました。時々、その会員さん達と会うことがあり、その時に、話しました。正直、私もこのモニターを通じて初めて食品安全委員会の仕事を知ったような次第です。食品安全委員会のモニターの大切さを感じています。季刊誌がもっと身近で手に入れば良いと思います。</p> <p>自分の所属している料理クラブの 10 名の全員に、活動日の際、BSE について説明しました。BSE の問題は SRM の除去の徹底と生後 20 ヶ月以下の食肉であれば安全だと伝えましたが、とりあえずはアメリカ産牛肉を購入したくないと人が大半でした。「買わなければよい」との結論にたどりつくまでが一方向的で、深くこの問題を知りたいという人はいませんでした。</p> <p>大学時代の友人に BSE 問題について話した際、マスコミなどの情報を知っているため、説明がスムーズにでき、よく聞いてくれた。</p> <p>同年代の友人に意見交換会の資料を持って参加依頼し、実際参加してもらったが、食に関する勉強経験がないため、ピンとこなかったらしく、次の誘いにはのってもらえなかった。やはり食生活への関心度は同年代でもかなり差があると思う。</p> <p>知人、友人らと食事中食品の安全の話が出たので、米国・カナダ産牛肉の話となり、不安がつのってしまった。</p> <p>米国・カナダ産牛肉について、消費生活アドバイザーグループの例会で説明しました。が、リスク評価に説明力がありませんでした。</p> <p>家族や友人といっしょに食事をする時に説明し、食品安全委員会から送られてきた資料を見せて、理解してもらえた。</p> <p>友人達とランチの時、魚のことが話題に上り、高知でよく食べられるかつお、キンメダイなどの話題になり、何人かの方が不安だということで、通常の摂取量であれば、問題はない、又同一種の魚を連続して食べない等話をすと一応納得してもらえました。結局一日 30 種類というように色々な食品食物を地産地消していきたいということに落ち着きました。</p> <p>モニター会議で外国からの薬草、山菜の中に故意でなくても毒草がまじっている可能性がある話に興味を持たれた。</p>

職務経歴	性別	年齢	回答
		60～69歳	<p>鳥インフルエンザについては、サークル活動の仲間に60以上で過熱すれば安全と伝えた。メチル水銀については、法事で会った若い女性たちに食物連鎖の話をして、妊婦は大型魚はできるだけ避けるように話した。米国・カナダ産牛肉については、外食の食材として入っていれば仕方がないとあきらめムードでした。</p> <p>家族にはテレビのニュース時に話題となり、安全委員会ではこのような見解をされていると報告。友人、職場の人々には話題として上ったときなど、また、友人と外で食事をしながら、メニューの材料を食べながらなど。</p> <p>所属している消費者問題の「研究会」で、季刊誌「食品安全」を示し、牛肉問題や鳥インフルエンザの話題提供をしている。多くの不安が出されるのが現状である。</p> <p>友人グループ10人位で畑を作り、全ての作物が虫にやられ農薬も少し使用しなければならない事。リスクコミュニケーションで勉強させていただいて使用するようになりました。友人の娘さんも妊婦でニュースでパニックになってたとき、季刊誌を見せれば安心したようです。マスコミの報道の仕方もあまり過熱しないようにした方が良いと思います。</p> <p>食事の際、参加出席した当日の内容を話し、新聞記事やニュースと関連づけ、伝達し話題としてとりあげている。</p> <p>家族には常に だってと言う風に世間話と一緒にその都度話題に上げる。友人にも同じようにニュースを受けた折に話題に上げる。食に関する安全性なので皆関心を持って耳をかたむけてくれる。</p> <p>魚介類のメチル水銀の事を魚をスーパーで買ったら説明すると、友人はどんなリスクがあるのかならうと瀬戸内に住めば全を理解してこの魚を食べるしか仕方がないと云われた。</p>
		70歳以上	<p>(鳥のインフルエンザ、BSE など)話題になったときの主婦層は、いろいろ情報を統一性なく、関心が高く系統的に食品安全委員会でのリスク評価、リスク管理の状況をふまえて説明すると理解された。ただ多発する食の安全・安心に対応しきれているのが多くの人から出される。リスクコミュニケーションが一部の人でしかなされていないことを痛感します。ですから出番はモニターなどであってほしい。</p>

(3) 職場

職務経歴	性別	年齢	回答
食品関係業務 経験者	男性	30～39歳	<p>職場において、社内及び取引先からの問い合わせ、特にマスコミからの断片的な情報からくるさまざまな問い合わせに対し、リスク評価の内容について説明し、過剰な対応をする必要がないことを理解してもらえ、同時に魚食に対する理解もしてもらえた。</p> <p>職場の上司・同僚に食品安全委員会の報告書(案)に対する意見募集時点で、検討の経過について説明を行ない、リスク評価時点の論点とリスク管理における論点(輸入の実質的な判断など)の違いについて理解してもらえた。(米国・カナダ産牛肉等のリスク評価関係)</p> <p>職場で休憩中に鳥インフルエンザのことが話題に上がり、私の知っていることを教え、理解してもらった。</p> <p>日常会話の中、食品の話題はしばしば出ます。TV や新聞でとりざたされているものに関しては、より深く説明することが出来ます。その他職場(調理場)で指導の一環として、話題にする事もあります。</p> <p>職場での昼食中にTVにてBSEの事をやっていて関連する情報について話したら聞いてもらえた。</p> <p>職場(9ヶ所)で、衛生勉強会の1つとして報告(パワーポイント使用)。米国・カナダ産牛肉では、特にA40判定への理解が深まった。</p>
		40～49歳	<p>相手が興味がなかったと思う</p> <p>職場の朝礼で季刊誌「食品安全」が食の安全に係る情報提供の一環として定期的に発行されていることを紹介した。また、Web サイトでも見ることができることも話した。興味を引き出すきっかけになったかと思う。</p> <p>自分自身が食品安全委員会のリスク評価情報を100%(完全に)信じていないので相手方も私と同じ意見でした。</p> <p>取引先の鶏卵業者の卵の安全性について、家族や、(勤務先の)セールスマンに伝えることができた。</p> <p>職場でのミーティングで話す、報告書にまとめる、などの形で伝えた。食品会社なので、皆の興味もあり、ある程度関心があったと思う。</p>
		50～59歳	<p>職場の仲間、たまたま食材が牛肉であったため、話し合う、説明する事の経緯順に話すことでよく解ってくれた。</p>

職務経験	性別	年齢	回答
			<p>用語集は会社での朝食・終礼・ミーティング等でのネタ元として、役に立っております。又季刊誌も話題の記事をコピーして、配布して、情報提供してます。</p> <p>最近、関心の高い鳥インフルエンザ、BSE 問題のため、家族でテレビを見ている時又は職場での休けい中に話しをして最新の情報提供することができ、少しは理解してもらえた。</p> <p>地域の集会で、「鳥インフルエンザ」について話したら、国の機関がまじめに食品の安全に取り組んでいることに驚きの声があがりました。</p> <p>季刊誌や用語集、情報は勤務するスーパーの掲示板に貼り付け来店者に見てもらった。</p> <p>社内報で報告。また、自社の展示会で外食産業に従事する方々に資料配布。食材を販売する会社であるため、関心はあった。質問も受けた。理解度は多様。</p> <p>食品業界に仕事している関係</p>
		60～69 歳	<p>毎朝のTBM でことある時に職場の仲間に口頭でPR。親友の栄養士に必要と思われた情報を提供。親族の食堂経営者に必要と思われた情報を提供。</p> <p>調理師学校の生徒へ、公衆衛生学の講義を通じて、内容について説明した。ある程度理解してもらえたと考えている。</p> <p>科学技術の仲間であるので、議論となり、問題点まで出され、理解が得られた。(特殊な例でしょう)</p> <p>在勤の企業で「衛生検査」担当者に、最新の情報として提供し、知識の拡大を図ると同時に大いに役に立たせていただいた。</p> <p>社内の食料部門(農産、畜産、水産、加工食品等)及び、系列の食品会社へメールにて情報を都度転送しました。取引先展開と規制、現状認識は不可分であり、リアルタイムで情報の提供をお願いしたいとの欲望が強く有りました。</p> <p>リスク評価説明の中で ADI 値決定に際しての安全性配慮が非常に大きいことにおどろいていた</p> <p>家族、友人知人、店の各に時に応じ説明、そこそこ理解を得た感がある。</p> <p>職場が技術集団(食鳥検査機関)であるため、研究会(研修会)の資料として使用している。</p>
		70 歳以上	<p>専門学校教員に昼食時に卵・食肉に係る感染症の安全性について話題にし説明した。特に牛肉問題は、各国の食肉の歴史と文化、食に 100%の安全はないことを理解しないとイケないと思う。政治問題と離れて食の安全とわが国の食糧事情を話せば理解してもらえる。</p>
	女性	30～39 歳	<p>食品の製造会社なので、食に関するニュースがあると必ず取引先の営業から連絡が入ります。トリインフルエンザの時に「鶏肉を使用した製品の安全性を示す文書を送して下さい」との依頼があり、いただいていた資料を送付して理解してもらいました。</p> <p>職場の朝礼で、一言話をする機会があり、鳥インフルエンザについて話した。わかりやすい言葉を使うことを注意して話し、理解していただけたと思う。</p> <p>鳥インフルエンザの発生で、鶏肉の摂取をこわがっている人に、日常会話の中で、ある程度安心してもらえた。</p> <p>職場・家庭では資料を見せながら、話をした。ただ絵が少ない報告書などは、見るのが面倒・時間がないの理由で興味や安心感をもたせることができない。文章も、もっと一般の人が興味をもつ工夫が必要。</p> <p>・職場の上司に報告し、情報を共有化した。会社の取組みとしても役立った。</p> <p>・意見交換会に関して、同業者の知り合になども誘って参加した。</p> <p>意見交換会については場所がはなれていること、託児がないことで行く気にならなかったみたいでした。あと間近になってからのお知らせで仕事を休めないことが多かった。</p> <p>用語集については、社内の全員が閲覧可能な電子掲示板に公開し、更新の際には再掲した。業務上、非常に有用であり、内容も理解しやすい。</p> <p>自社で品質委員会があり(月 1 回)、現場作業員を対象に鳥インフルエンザによる人的危害が低いこと、BSE に関してはアメリカと日本ではプリオンに関する検査方法が違うなどの話をし、現状での安全性に対する国の見解を伝えた。皆さん納得していたが、不安が残るという意見が多数あった。</p> <p>会社では休み時間等栄養士の立場として伝え文章等を直接見ってもらう事で理解を深めてもらえたと感じています。</p> <p>職業柄、魚介類販売を行っており、来客された方に説明し、ある程度リスクを含めて、理解していただけたと思います。</p>

職務経験	性別	年齢	回答
		40～49歳	意見交換会后、すぐに職場で説明。資料を見て納得していました。 職場(保育園)で調理にたずさわっている方々に季刊誌「食品安全」を読んでもらい理解をえた。 職場で日常会話の中でトップニュースで伝えられた項目について、自分が知り得た情報を相手に伝えた。食品安全委員会の情報という事で、信頼性をもって納得、関心してもらえ、次の情報の提供を求めた。 個人で店を営業をしていて、まずテーブルにおいておき、お客様がその資料に必ず目をとおしていた。そのときに意見をきいたり、補足したりした。 自営やボランティア活動の中での会話で自身が内閣府のモニターに参加していることを告げ、内容を話している。が、その活動(安全委員会)の信頼性は疑問であるから 家族や職場の人にマグロのメチル水銀は、妊婦さんは特に大量に毎日食べない方がよいと言うと、産まれてくる赤ちゃんへの影響を考え理解してくれました。 コープの組合員活動の会議などでお話した時、BSE にしても、鳥インフルエンザにしても、確率の問題というよりは、かかった場合のリスクが大きくて、防ぐのに国には最善を尽くして欲しいという思いが大きい。 食事をする時に、関係のある食材がある場合に説明しました。興味のある人とは話が続きませんが、全く興味のない人もいました。 情報を得た時には同じ部署(商品管理室)の人に提供してはいるが、結論のみの受け入れにとどまっている様である。 職場(食品製造業)の社員の朝礼で、このような資料があるので、折角食品に携わっているので、参考にして知識を得てくださいと伝えたのですが、見ている形跡はなかった。
		50～59歳	モニター会議での情報を職場の人に紹介した時に、学術的根拠があるという点で安心してもらった。 時節柄、鳥インフルや牛肉問題等はすごく関心があり、家族や職場で話し合いました。その結果、国が輸入を認めても、疑わしいものは極力購入しない。食べなくてもその他の食品があるので死にはしない等の答えが返ってきました。 職場の昼休みに話題にあげられる。鶏肉は価格も安いのでよく食べているので関心は高い。その反対に牛肉は関心は薄い。 鳥インフルエンザに関して、職場の人たちに、鶏卵の安全性について説明し、ある程度、安心して購入したいと思っている。 職場において、10 数名の方と話をする機会をもった。また、食品担当上司に直接(BSE、鳥インフルエンザ、メチル水銀等)話をした。 まず資料を見せマスコミや新聞等々の情報等々を組み込みながら、それぞれの意見を聞き国の方針を伝えた。
		30～39歳	食品衛生関係の検査機関に勤めておりますので、同僚、顧客ともかなり関心を示してもらい、自分の言葉にして話しているので、かなり理解していただいていると思う 米国・カナダ産牛肉の問題に関連して、BSE と VCJD の関わりについて大学学園内の広報誌で紹介した。反応はまだ印刷中の為不明。
		40～49歳	食の安全・安心に関する不安の解消に役立った。 (鳥インフルエンザ)卵の使用が多い企業(パン・和洋菓子)ですから、職場や、取引先の人達との情報交換実施
		50～59歳	食品メーカーの営業部門に居てテクニカルアドバイザーをしています。隔週で社内メールで食品安全レポートを配信しています。リスクを定量的に示したり、既知のリスクと比較したりして説明を加えると、わかりやすかったという感想がもらえます。
		60～69歳	1.社内研修会において食品安全委員会のリスク評価について発表し食品安全の評価法について理解を深めた。 2.学生(看護学校)講義に提供された資料を利用し、鳥インフルエンザウイルスや BSE の正しい知識の修得に役立て理解を得た。 加工食品製造技術者の研修会で解説して理解してもらった
		70歳以上	各種食品団体の集会において 全員食品メーカーであるので大いに関心あり、理解は十分あった。 新規食品加工へ参入又は参入希望の人々へ 理解はする努力は認められるが、自己固定判断から離れたものへの理解不十分 輸入食品の安全性について講演依頼があった。(2回)(病院栄養士、大学学生)リスクコミュニケーションに参加された。(紹介した BSE のリスクコミュニケーションに参加され、それが基で大学学生への講演依頼を受けた)

職務経歴	性別	年齢	回答
	女性		協同組合役員会議終了後に、役職員(約30名)を対象に「BSE対策についての中間取りまとめ」の学習会で講師を務めた。日本のBSE対策に対する理解を深めてもらった。
		20～29歳	鳥インフルエンザについて、家族や友人にまたは職場の人に雑談の中で質問があったので、説明し、ウイルスは基本的に種特有であることや、卵などは、適切な措置がとられているので心配ないことを理解してもらえた。
		30～39歳	魚介類のメチル水銀について、部内会議で報告し、日常的な食べる量で問題ないこと、特に男性には気にしないでいいと話しました。避けるよりも、魚を食べることの大切さを理解してもらえました。 家族・・・食事時。友人・知人・・・会った時。職場・・・雑談時。貴局からの資料を見せて、文面により確認
		40～49歳	私は大学での授業に使い、レポートを出してもらっています。その中で「政府が言っているからそうなんだろうな」という本音が出ていました。ppb単位になるとメチル水銀はそんなに魚を食べないのでとの反応でした。 学生に(授業中等)「何故鶏インフルエンザが恐れられているか、ウイルスは現段階では、加熱によって安全確保できる。」旨。初めて鶏インフルエンザが流行した時は「やっぱり気持ち悪い」という意見が多かったが、「慣れ」か「何回もきくこと」で理解してもらえた。 大学の講義で米国・カナダ産牛肉のBSEリスク評価の結論を話したが、結論がはっきりした言い方ではない為、内容を理解することが難しいようであった。
		50～59歳	「魚介類にもメチル水銀が含まれており、とくに妊娠中、授乳中の女性はマグロ等の過剰摂取は注意したほうがよい」との話題になった時、魚は無害無毒安心安全でいくら食べても大丈夫と思っている人に「魚介類...」を説明してわかってもらえるのに苦労しました。 家族の場合...自分で理解したことを、身近に話せるので、理解を自分の中で消化できるという利点も含めて家族に話している。 職場の場合...食に関わる仕事なので、鳥インフルエンザの発生時には、情報の提供が特に効果が大きかった。(信頼できる情報の提供が一番大切です)情報の入手経路を(例、意見交換会も含めて)話すと、熱心に聞いてくれる。
医療・教育職経験者	男性	30～39歳	食品衛生学実験の授業を担当しており、BSEや食品添加物についての安全性などの問題提起を行い、学生各自で考えさせ、レポートとして提出させた。
		40～49歳	高校生に食品化学の授業で説明を行い、特に食品会社に就職するには理解してもらえた。 学校の講義の中で、学生に説明。学生も非常に関心を持っていた。
		50～59歳	不安としてかなり残っている。
		60～69歳	私は調理師専門学校で食品衛生学を教えていますから、講義で話しています。生徒からは、情報量が多い教師で通っています。ニュースソースが正確で安心(理解)を得ています。
	女性	20～29歳	職場において、例えば、調理作業をする合間、世間話をする感覚で同僚やパートさんにそれとなくきっかけづくりをしながら、小出しに情報を提供し、共感していくようなかたち。
		30～39歳	栄養士なので、食品に関しては非常に関心があります。同業の姉や職場の調理員に対して教育も含めて活動をしました。調理員はほとんど主婦なので、食品購入の際非常に役立ったと言っていました。 職場で、定例の勉強会の中で資料を作成し配布したことでわかりやすく又、理解してもらえやすかったと思います。家族には要点のみを説明した事で終わってしまい理解を得にくかった様です。 魚介類に含まれるメチル水銀についてのリスク評価について、授業の中で生徒(高校生)への説明を行った。人体へのリスクを具体的な数値を用いて説明することで、ある程度の理解はしてもらえたと思う。 家族とはゆっくり話の出来る夕食時にその日のメインについて安全性やモニターさんからの意見等を話しながら食事をしています。又、職場では昼食のお弁当をかこんで、毎日ではありませんが、話をしますが、職場では様々な考え方でみなさん生活しているので、私の話を100%うけいれてくれたとは思っていませんが、BSE問題ではお互いに今の段階での解禁は早いという意見で終わりました。
		40～49歳	職場での休憩時間、雑談をしている時に話題となったので、情報提供した。信頼のおける情報(情報を発しているところがはっきりしている)ということで納得してもらえ、注意を喚起した。 職場の同僚や上司に、米国・カナダ産牛肉について、伝えた場面で、不安がまだ多いという理由で安心してもらえなかった。

職務経歴	性別	年齢	回答	
		50～59歳	看護学校の授業(生活科学)の中で、学生さん達に情報提供。きちんとパワーポイントで説明したので、理解してもらえた。	
		60～69歳	主に、専門学校の授業の中で話をしてきましたが、生徒の年代に巾があり、年代の高い人により関心が強いようでした。“安心”については例えばBSEに関して、日本のように全頭検査が望ましいということで、輸入牛肉について、まだ不安が残るという意見が目立ちました。	
その他消費者 一般	男性	20～29歳	大学院に在籍しているため学術上の質問が多いのですが、メチル水銀問題については、迅速な検出手法はないのか等のお話は伺います。	
		30～39歳	仕事場でHPの情報を閲覧。私の主宰する情報交換会の場でディスカッションを行った。 やはりサラリーマンなので飲み屋が多い。肉が出たときや、家庭料理の話になった時、とても説得力ある話ができる。 相手が高齢者なので、専門用語では、なく、わかりやすい言葉で説明したのに、聞いてくれなかった。 昼食時等休憩時間を利用して説明 概ね理解	
		50～59歳	職場の年長の方に、食品安全第5号を見ていただきました。食物アレルギーの記事をみて、たいへん驚かれていました。御本人の好物が多く載っていたのです。冊子をその方の御家庭へも持ち帰っていただきました。活用されているとの事です。	
		60～69歳	1.社内でも閲覧する。2.取引先で説明をする。3.系統だてた資料のため相手が理解しやすい。	
	女性	20～29歳	親族、友人の多くは飲食物調理従事者や教育に関する職業に就いており、資料を郵送したり、集まった際に話題にしている。資料を見ながらなので、ある程度の理解してもらえたのではないと思う。 季刊誌を教室においておいたら、休み時間にみている生徒が多かった。そして、その時、疑問に感じた事を質問しにきたりした。 魚介類に含まれるメチル水銀について。メチル水銀だけでなく、アルミニウム等の含有についても質問を受けました。	
		30～39歳	家族には食事中に説明をするため、より食品の安全性について理解してもらった。友人、知人には会う度に口頭もしくは資料を提示しながら説明し、職場にも関心のある人が多いため資料を見てもらい理解してもらえた。人と会う時には、なるべく食品安全委員会で得た情報を話題にしている。 魚介類に含まれるメチル水銀の害を気にして魚を食べるのをひかえていた親せきに、妊婦ではないので、体内にメチル水銀はずっと蓄積するのではないので、それ程おそれる必要はないと説明したら安心していた。(6について) 家族に対して...TVや新聞で報道があった時の会話の中にもりこんだ。職場では栄養士をしているので食材の入札時等のミーティングでもりこんだ。共に相手もある程度の知識があったのでスムーズに理解してもらえた。 (管理栄養士なので)栄養指導の時のクライアントからのご質問の時に説明を行い、事実を伝えることによる安心感を得て頂いたと思います。	
			家族には団らんの場合、知人や職場の人へは休憩時間などに話した。日本人にはリスク管理の考え方が欠けている、ということで、食品安全委員会の決定事項について理解してもらえた。 県立高校で、家庭科の非常勤講師をしており、職場の人に必要に応じて、送付された資料を渡したりした。各人、食の安全に関する知識があるので、特別、私の説明が安心感を与えたとは思えないが、送付資料は教材研究には有用だったと思う。 職場の人に昼休み時間に牛肉の話をしたときはリスクの低さはそうかもしれないけれど狂牛病自体こわいから0%でないということならやっぱり心配だと言っていました	
		40～49歳	職場の栄養士に情報提供し、食材について話をした。輸入食品のことや調理の仕方等について話をした。彼女は栄養士等の講習会にも参加しており知識は私以上にあった。 テレビのニュースで流れている場面で鳥インフルエンザ、牛肉などについて私のわかる範囲で説明して、わかってもらえたと思っています。 会社の同僚に休けい時間等(昼食時)にメチル水銀について話し影響のない摂取量など具体的な数値を交えて話をしたので理解してもらえた 職場において、資料等を参考に見せて、聞いてきた事を話した。資料等があり、知らなかった事などたくさん理解してもらえた。 米国産牛肉について職場で話し合い、安全性についての評価は理解されたが、それに伴う行政の対策については安心してもらえなかった。(全体に行政が信頼されていないと感じた)	

職務経歴	性別	年齢	回答
			職場の人にお茶の時間に情報として話した
		50～59歳	職場の昼休みに話をしたが、「へー！」で終わって、すぐ次の話題に移ってしまった。関心のある方が少なかった感じがした。 米国牛肉輸入再開の是非が取りざたされている時期に米国人の「めったに BSE なんてないから大丈夫」「今までずっと牛肉食べていたけれど何ともなかったから大丈夫」という国民性の違いを話し、輸入再開に不安が残る事を理解してもらえた。 調理師学校で食品学を教えているので、鳥インフルエンザや米国・カナダ産牛肉のことなど説明した。20代前半の生徒が多いので、不安感はあまりなく、鳥肉などは食べているようであった。
		60～69歳	食品メーカーの中で社員間での情報として、又料理講習会等にて説明しているが、BSE の件は、なかなか理解していただくのは大変でした。

(4) 地域活動の場など

職務経歴	性別	年齢	回答
食品関係業務 経験者	男性	30～39歳	メバチマグロ等の摂取量とメチル水銀のリスクについて説明、許容範囲内での摂取は可能であることを理解。
			食品関係の取引先で講演する機会があり、食品安全委員会の活動内容の説明と、上記のテーマについての説明を行いました。リスクを評価する部門と管理する部門に分けたことは理解していただきました。
		40～49歳	食品工場の従事者に対して、教育の教材として提供した。
			BSE の科学的なリスク評価について説明したが、マスコミ等の報道による感情的(主観的)な不安が客観的な判断を上回った
			不特定の者(大人である)を対象に、大学においてリスクコミュニケーションを実施した。及び学生の授業で活用した。現在までに明らかにされている事実をオープンにし、それに対する食品安全委員会の考え方、厚労省及び農水省等の施策を加味し意見交換を行い、殆どの場合、安心した。一部安心しないことは、抽象的表現をする場合は、意見交換の中で納得が得られない場面もあった。
		50～59歳	地域の社会福祉協議会から食の安全・安心についての講演を依頼された。
			店内の目につく所において、来客の人には説明したり、学校の養護教諭(学校薬剤師をやっている)に説明をする時があるが、どこまで本人に興味、問題意識があるかわからない。
			妻・娘・・・食事後に説明し、理解した様子であった。 食品関係者・・・会議後の雑談時に情報を伝え、関心を深めた様子であった。 中小企業・自治会関係者・・・打合せ後に説明し、関心を深める努力をした。
			食品安全モニターであることを多くのシーンで伝えてある為、それぞれの場で「何か情報はないか」と聞かれますから、こちらも積極的に話すこととなります。
			生協の組合員会議への情報資料として季刊誌「食品安全」の遺伝子組換え食品の評価等を活用し、簡潔な解説ができ理解を深めた。
		60～69歳	地区の役員会で鳥インフルエンザ拡大規制の影響で廃棄した養鶏業者の話題となり、人への感染不安に対し、鳥からの人への感染はないと説明して安心してもらえた。
			低無農薬栽培に取り組むサークル、老人クラブ等の集いで説明しましたが、安全に対する国の取り組み方(特に輸入牛肉問題で)に不信感が多い事でした。
食品衛生指導員研修会等で説明を行い、安全委員会の見解に沿った説明を行い、理解し合えるよう努力した。			
食品は、ゼロリスクはない旨、よく説明し、理解してもらえよう努力をした。結果は理解してもらえたように思う。			
地域活動の中に地元短期大学の非常勤講師を務めておりますので、この講義の中に入れ、学生が関心を示してくれております。できるだけやさしく分かりやすく話してはいますが、若干理解されない部分もありました。 県栄養士会(現在会長)の理事会資料として配付し説明した。職種としては当然周知して欲しい知識として考えている。			
高等学校の食品衛生学の時間に話した。ある程度理解したようである。			

職務経験	性別	年齢	回答
			<p>HACCP 関連の講習会(集団指導)で食品衛生の用語の定義に用語集を使わせて頂きメンバー共有の定義として賛同を得られた。</p> <p>東京の「食品安全情報相談室」の相談の機会に、実際に、自分が食品安全モニターの活動を通して、「リスクコミュニケーション」に参加して、知り得えた新しい情報である旨を説明する中で、理解していただいた。</p> <p>ほとんどが食品関連の人に、その都度、話題毎に、若干の説明(科学的なものと少し主観的なものを混合して)を加えて、主に口頭で、打ち合わせ時又は講演、講演会場で伝達した。相手の反応は、よく理解している話題はかなりのやりとりがあったが(例:BSE、鳥インフルエンザ)、関心の低いもの、難解な内容のものは聞き流された(例:BSE、用語集)。やはり、やさしい解説、説明がほしい。</p> <p>自治会婦人会老人会等グループ談話会において一部雑談的に食の安全と現況を話してみた場合、一番毎日の食生活に関係あると興味を持つことによりその会合も有効であると思われました。</p> <p>調理実践の前に話し、講演会の中にも入れる(必ず15~20分は話す)</p> <p>朝市会の反省会を月一度開催しており、その場で活動状況を発表しているが、具体的な資料を示して説明しているのでは理解が得られていると思う。</p> <p>食品安全モニターの情報の中より選択して調理に関わる情報を伝えている。</p> <p>インターネットの「フードサイエンス」及び私のマガジンに記事を書いた。衛生講習会でお話した。</p> <p>私は調理師ですから、皆真剣に聞き、特に食事の時、又は調理後に話をする用にしておりません。</p>
		70歳以上	<p>食品技術工のミーティングで常に報告し話題とした。安全講演の機会に原稿におり込んだ(約10個)。</p> <p>短大の非常勤講師としての担任科目授業、ボランティア活動の構成員、新聞への投稿依頼記事解説等で、平易に解説し喜ばれている。魚介類は実は関心が低いのでせず。</p> <p>調理師学校で食品衛生関係の講義で安全委員会の内容説明で、質問もあり、またテストでもよく理解していることがわかった。</p> <p>県の食料品表示ウォッチャーの会に就いて説明し質問に答える形で理解を得て大変喜ばれた。</p>
	女性	20~29歳	顔を合わせた時に口頭で
		30~39歳	内容がむずかしすぎて、うまく伝わらない 意識が違う
		40~49歳	<p>料理教室で授業を行う際に国産鶏肉や鶏卵の安全性を説明したり、モニター会議での情報や季刊誌「食品安全」の記事を紹介した。生徒達は非常に興味深い様子で理解してくれました。その日の食材に関連させました。</p> <p>栄養士の集まり・生協で理解してもらえた理由 わかりやすく同じ主婦のことばで話したからだと思います。</p> <p>米国カナダ産牛肉再開後直後の再禁止にあたり、米国、カナダへの姿勢について疑問が出た(もっと早く、強硬な態度で臨むべきだったとの意見あり)</p> <p>模合仲間の勉強会(食についてのサークル)にて、鶏卵&肉と鳥インフルエンザの危険性についての時、鳥インフルエンザは人間に感染しないと、昨年言われていたが、最近死亡者、感染者が多いことから、鶏卵が安全だと言われても、また変わるのではないかと不安がっている。</p>
		50~59歳	<p>魚のメチル水銀に関して情報が出された際、係っている両親学級において、妊婦さん方に魚の選び方、食べる量、食べ方等を話した。細かく知っている方ばかりではなかったが、「こわがらないで、普通に食べていればいいですね」と言われた。理解していただけたと思う。</p> <p>離乳食を毎日作っている健康推進委員の方数名に BSE の話をし、情報を良く知っていると言われ、今度も教えてほしいとのことでした。</p>
		60~69歳	<p>家族の食卓を囲んでの会話として話し、関心が高まった。(食卓を5人で家族) 親戚で食事会や、友人達(4~5人)での食事会で質問がでた。</p> <p>食と農(流通、生産者、消費者、飲食業、行政)交流会が毎月開催されるので同じテーブル(10名)内や全体会(約100人)への話す機会を作ってもらい提供した。</p> <p>アメリカ産牛肉の輸入について、輸入再開にむけての考え方を伝えたところ、あくまでも従来日本でやって来た全頭検査確認した肉でなければ安心安全な肉として食べられないとの意見が多かった。</p>

職務経験	性別	年齢	回答
			<p>市の消費生活モニターをしております。月1~2回の集まりですが、私たち台所を預かるものにとって食品は関心が大きいです。鳥インフルエンザ、米国牛については、皆さん大変な考えがあります。価格は安いのにこたえがないが、品質が一番大切な事です。安全性についても話し合いました。理解していただいたと思います。</p> <p>鳥インフルエンザについて、鶏卵、鶏肉から感染することはないが、それらを扱った時は食中毒の予防のため、手をよく洗うこと。</p> <p>消費者団体の学習会などで添加物や農薬、遺伝子組み換え作物等の影響などの学習を行い、いかに現代の食品が恐ろしい物だらけで、本当の情報が伝えられていないかという事で安心できない実状であるという事。</p> <p>福祉関係の料理教室に参加して調理後の試食会の時に説明した</p> <p>友人、知人、地域のサークルにおいて、食品安全委員会よりの情報を伝えて理解してもらえるように努めている。</p>
食品関係研究 職経験者	男性	60~69歳	シルバーカレッジの学生に、会議等で。話す側への信頼度により理解が分かれる(発信先の信用性を含めて)
		70歳以上	<p>食育教育・食農教育の研修会等で情報を伝えている。</p> <p>鳥インフルエンザについては新聞等で予備知識があったため十分納得してもらえた。米国・カナダ産牛肉については、一応了解した様子。残留農薬問題では、十分理解してもらえない。農薬使用に当たってはまだまだ一般の人には十分な教育が必要と思う。</p>
	女性	50~59歳	<p>情報のプリント(コピー)や冊子などを用いて、具体的に説明し、視覚的に理解してもらうことができた。</p> <p>職業上(高校の家庭科の講師)生徒に、一番新しい情報は伝えるべきものと思っていますので、授業の中で、必ず教えます。</p>
		60~69歳	高齢者施設(地域)で施設の職員と施設を利用している家族の人達と栄養に関する懇談会を持った時に「問13」の項目すべてではなかったが話をした。ある程度は理解してもらえた。
医療・教育職経 験者	男性	30~39歳	町内会、患者さんとお話会の時に、情報を提供して、皆熱心に聞き、理解してくれました。
		60~69歳	<p>家族に食事しながら。老人クラブの集いに月一回鳥インフルエンザ、BSEについて話をしている。</p> <p>自治会内で健康講座を開いているので、この時正確な資料提供が出来て理解してもらえたと思う。</p> <p>講演会 自治会の役員 で関係資料をコピーして渡し丁寧に説明した。質疑応答を行い浸透をはかる。</p>
		70歳以上	説明場所:受講する学生(栄養学、生理学、生化学、病態学等の講義)。安心してもらった理由:LD50等の例外はあるが、データは確率を伴うものである(例:天気予報、その他予測)実生活はこの情報の中で営まれているのだ。日本や諸外国の検査機関から出されるデータを自分で選ぶとする姿勢を持つ。
	女性	30~39歳	病院(職場)にて、栄養指導を行っている際に、情報を交えながら話をしている。又、小学校にて役員をしている為、機会があるごとに情報を与えてきた。(患者様、調理師、父兄)ニュース等での情報が混乱していた時などは適確に伝えられたと思う。
		40~49歳	<p>父母会また地域での栄養講習会等で、情報提供したことが数度あり、その時、簡単な質疑を通し、正しい理解を深めてもらったと思う。ただ、BSEについては意見が多く、各人の意見尊重し、知識提供につとめた</p> <p>特に家族については非常に興味を持つものが多く、簡単にはあるが、報告できたと思う。(姉は小学校長、兄は弁護士で、私の情報より詳しく知っている点もあった。)また、地域活動としては、県主催の食の安全くらしのセミナーで、平成16年、17年度と学習している。が、そのメンバーに復講とまではいかないが、情報を提供できた。多くは、理解してもらえたと思う。</p>
		50~59歳	<p>保健委員会で、鳥インフルエンザの伝染の仕方についてや、肉を加熱して食べる事、そのもののリスクはないと云うこと。安心したと思う。</p> <p>市の在宅栄養士会において遺伝子組換え食品や食品安全委員会のHPの紹介をしましたが、HPを見て沢山あり過ぎて、すべての文章を理解しがたく何から見ていいかわかりにくいという意見でした。実際にアクセスして下さったかたは、まだ少ないようでした。</p>
	60~69歳	私自身の行動・活動を認識している人が多いので信頼性をもって聞き得情報のように耳を傾けてくれる。又それについてディスカッションになることもある。	

職務経歴	性別	年齢	回答
		70 歳以上	<p>家族とは常に購入する食品、食材の安全性について話題にし共通理解している。</p> <p>友人とは月一回定期的に会って意見交換している。</p> <p>地域では(小中学生を含む)講話をして理解を深めた。</p> <p>私自身が生の目で見た状況を話した。非常に関心を持たれ、「BSE について目がさめた」との言葉が多かった。</p>
その他消費者 一般	男性	40～49 歳	コープベル(組合員問い合わせ対応)にて生協取扱いの鶏肉の安全性に関する質問を受けた際、「食品安全」や HP よりの情報をお伝えした所、過剰な不安感も払拭していただいた。
		50～59 歳	<p>食品関連企業で働くパート(女性・主婦)従業員に対し、衛生指導の場を通じて説明し理解してもらえた。</p> <p>町内会役員会の席で高病原性鳥インフルエンザについて説明。ウイルスの突然変異が起きない限り、現段階で人への感染の可能性はきわめて小さい事等大体において理解してもらった。</p>
		60～69 歳	<p>博物館ボランティア奉仕活動中、同僚ボランティア間の会議や、談話等の機会に情報提供している。殆どが高齢者だが、幾多の試練を克服してきた人々であり関心が高く、私の話に集中してくれる。</p> <p>地方自治体の消費センターの運営協議会の副会長(ボランティア)として委員の方々に定例会や部会において資料を作成して配布の上概要を説明。時間の制限があるため別途詳細に説明の場を設けてほしいとの声あり。</p> <p>地域ふれあい協議会(定例・臨時)本題終了後に、食品安全モニター活動報告に時間をとってもらい、説明している。食品安全問題は、ほとんどの方が関心があり、おおむね理解してもらえた。</p> <p>地域活動等の中では、食品の安全について、事務局からいただいています資料等に基づいて簡単に説明しています。また、食品の安全については、国等の説明、情報不足及び情報説明時期のおくれ等が指摘されています。</p> <p>理解度はともかくとして、法に基づく食品安全委員会からのきちんとした情報として、これに優る安全情報はあり得ないという事。</p>
		70 歳以上	友人、兄弟訪問時に話題として説明。相手から参考になったとの反応。消費者の会終了後増刷パンフレット配布、安心してもらえた。
	女性	30～39 歳	<p>在宅栄養士で栄養相談を受けた際に食品添加物の安全性について説明し、国で出している安全性のあるデータがあるという説明で理解してもらえた。</p> <p>鳥インフルエンザについて、食品表示講習会の講師をした際に、当時話題になっていた本題についての安全性を説明し、理解してもらった(と思う)。魚介類に含まれるメチル水銀と食品安全モニターからの報告の情報については所属している会の広報誌に情報提供したため、読んだ人の感想が直接伝わってきていないので反応はわかりませんでした。</p>
		40～49 歳	<p>市の生涯学習施設主催の食育セミナーや自分が主催する食のセミナーで説明を行ったが、参加者の関心はあまり強くないのか、もっと端的なことの方に興味を示した。</p> <p>中学校の PTA 対象の食に関する行事の際に、鳥インフルエンザの発生・危険性が話題になり、食品安全委員会から届いた資料、情報について説明し、加熱して食べれば安全であるという理由で安心してもらえた。</p> <p>かなり多くの知人から日常生活の中で、BSE について質問をされ食品安全委員会のリスク評価について説明し、科学的な根拠に基づくものであることを理解してもらえた。</p> <p>リスクコミュニケーション開催について地域活動にて情報提供したところ大変興味をもってもらい参加してもらえた。</p> <p>意見交換会等の開催情報について、食生活改善推進ボランティアの会員や、地元国立大学附属農場のエコファームの参加者に案内した。いずれも開催が都内であったり平日であったため、興味はあったが参加には至らないようである。</p> <p>生協活動の中で、BSE など、確かな情報が遅いため、情報を提供したり、他の事項などに対しても、意見交換などに情報を提供した。学校 PTA 活動の「食育」の部分で話した。</p> <p>会社の会議、及び、市の調理師会で、委員会からの資料をもとに説明、国からの資料なので、理解は深かった。</p> <p>地域の学校のボランティア活動のおり、「食の安全」の話がでて、魚介類のメチル水銀について話しました。地域がら、とても関心がある様子でした。しかしうまく説明できず、皆さんにメチル水銀の知識がなく、あまり安心してもらえませんでした。</p> <p>米国産牛肉の背骨混入発覚後、行政の消費者相談窓口において、輸入再開された米国産牛肉の流通ルートについての質問を受けました。輸入牛肉には、国産牛肉のようなトレーサビリティ制度もなく、輸入再開の政府の決定が早すぎたのでは、という不安をとりのぞくことはできませんでした。</p>

職務経験	性別	年齢	回答
			食生活改善推進員として指導した調理実習の場で、みんなに食品安全委員会からの報告を説明しました。皆さん、感心があるようで、熱心に聞かれ、質問なども出ました。
		50～59歳	<p>「米国カナダ産牛肉についてのリスク評価」について、生協の理事会及び組合員対象の学習会で説明した。理解は得られたが、私も含めて納得はできなかった。</p> <p>地域の家庭婦人の集まり等で回覧してみました。関心のある人はよく見えています。</p> <p>アメリカカナダ産牛肉輸入再開にあたり不安があるが約束が守られるのならと理解してもらったがせき髄の付いた肉が見つかり何だやっばりと思ったが、よくぞ見つけてくれて即輸入停止はよかったがすべて検査しているのではないのもれて入ってきて売られたのではないかと意見あり。アメリカの牛の管理、日本の輸入できる製品の徹底周知を望む。</p> <p>米国・カナダ産牛肉のリスク評価に関して、話が一転、二転したこともあって、伝えるのが難しかった。また輸出されるとき、輸入されたときに確実に点検されているかどうか、信用できないと言われた。</p> <p>友人が集まる機会があるごとに積極的に話をする。友人達も私がモニターをしている事を知っているから熱心に話を聴いてくれる。季刊誌等は持って行って(地区の寄合い)回覧してもらう</p> <p>地域の方々に、食生活改善推進員として、公民館の調理室で調理教室をしながら、食と健康について話しています。食品安全モニターとして、内閣府より情報をもらって勉強しているということ、日本栄養士会に入会し、勉強会にも言っているということ、また、管理栄養士の国家試験も合格めざして勉強しているので、わりと信用されていますので、理解してもらっています。</p>
		60～69歳	<p>消費者協会の仲間にコピーして渡した。</p> <p>生産組織(女性集団)の会合で「食品安全モニターからの報告」を資料として意見交換した。特に BSE 関係、農薬関係、食品表示関係のコメントが理解してもらえたように思う。</p> <p>高齢者交流施設に参加されている方々に食品安全委員会からの資料持参と問いかけをする。皆さんテレビで食品安全委員会を知っていて、そこからの資料等なら安心だと話しています。</p> <p>公民館の料理教室の講師をしているので、講習会の都度話しました。鳥インフルエンザは熱を加えることを伝えました。又国産のもの(トレーサビリティの確かな肉)の利用を話しました。主婦の多くは不安を持っている様で、理解してもらえたと思います。</p> <p>四姉妹が集まった時や自治会の会合の折の雑談中に極力食の安全情報を伝えた。皆、驚き、理解してもらえた。</p> <p>所属している地域栄養士会の例会において資料を回覧又は提示して情報伝達しています。特に鳥インフルエンザ、米国・カナダ産輸入牛肉については、事態が進行形なので、皆今後の動向について、非常に強い関心を持っています。各々の職場などでもよく話題に上ることです。(また季刊誌「食品安全」については、是非共各自でせめて 1 部ずつほしいとの要望が強く、何とか出来ればと願っています。)</p> <p>モニターの随時報告の中には関心のある身近な問題が含まれています。その回答と共にモニターの疑問の点も話しています。</p> <p>ボランティア(音訳)の会合時(井戸端的に随時話題事柄も話し合います)ベテラン主婦多数に、BSE に対する安全委員会の見解、鳥インフルエンザ対策を。12 月に輸入再開されたことに対する不安は 12 月に多数ありました。</p>
		70歳以上	<p>保育園児から高齢者にいたるまでの人々を対象に年間 80 回程度の講演会や講習会の場で、上記のことについて新しい情報を提供した。最も理解してもらえたことは、国の機関が熱心に食品の安全に対して取り組んでいるという事であった。次いで、各々の内容については、時と共に状況が変化しており、各自が引き続いて学習すると共に身構えて注意していかなばならないことを再認識された。</p> <p>食生活改善推進員として地域活動(母子の料理教室、男性の料理教室等)で活用してきましたが、時間的に私の気持ちを十分伝えることが出来なかったと思いますが、これからも勉強してこの思いを皆様に届けたいと思います。</p>

問 17 問 16 において、「活動している」を選択された方にお聞きします。回答については、差し支えない範囲で結構です。

(1) その活動の内容等について、記入してください。

職務経験	性別	年齢	回答
食品関係業務 経験者	男性	30～39歳	食物アレルギー関連のNPO法人に参加している。 生活協同組合に所属し、食品の安全性に関する情報発信や問い合わせ等に対応している。
		40～49歳	HACCPの推進と普及に努めている。 大学の教員であり授業に於て食品安全学及び食品衛生学を担当しており、授業で十分活用し、一般人相手に年1回リスクコミュニケーション或は講習会、講演を行っている。
		50～59歳	県食品衛生推進員として 県から委嘱され、中小企業に対して食品全般に関する技術指導 職場スーパーの魚部門において食の安全を主張指導 134店舗 食品表示のコンサルティングをしている。 ボランティア協会の会員であり、町内会長として、食の調理教室や婦人会に活動の場に対応している。 食品衛生指導員として保健所の手伝いをしています 有機JAS認定機関で加工施設の検査員をしている
		60～69歳	県インストラクターの会の会報に紹介(3回) 団体の事務理事兼事務局長として食品衛生指導を行っている。県のアグリビジネスアドバイザーとして食品衛生部門を担当し産直等の指導を行っている。 栄養士会に対して講話をした 地域婦人・消費者の会員に対して講話 セミナー開催 市食品衛生モニター 食品企業OBとして現役及び友人等への情報提供 自治会の希望者でチャンスを見つけ、Q&Aの方式で勉強会をしています。 短期大学非常勤講師(食品衛生学受持) 中華料理店を通じて 理事会や研修会等で、必要性の高いものや時機を得た情報を伝えるようにしている。 自治会の役員会議などで情報を提供している。 清涼飲料水工業団体での総合衛生管理製造過程講習会(年3回)の講師等、中小企業向け一般的衛生管理の講習会(年数回)の講師 社団法人 食品安全情報相談室 主任相談員 県食品技術研究会(任意団体)の講習、講演会で学習や、意見交換会をしている。食品コンサルという職務上からも、こちらから先に話題を提供していくようにしている。 草の根講座の中で、一部話すと食という点で興味あるということを知ることがわかりよかったと思った。 (無記入) 問15で記した朝市会の役員をしており、安全性に関する相談に対応している。

職務経験	性別	年齢	回答	
			県調理師連合会において、料理講習研修会として食の安全等の講習指導	
			インターネットでの情報提供およびセミナー講師 メールマガジン“食中毒 2001”企業や生協と協力して活動している	
			JAS 有機認定生産組合(生産工程管理責任者)。市・産業育成事業のハーブ推進協議会委員として、農産物の安全性を強調している。	
		70 歳以上		食品コンサルタントとして 食品技術工としてチャンスある度に。
				自治会・長寿会等で時々話題に正確な知識を伝えている。
				シニアの方々に食品の安全について話題の提供
				市科学技術カウンセラー 市生活衛生推進員 短大非常勤講師 講演や執筆活動等他多
	女性	30～39 歳		子どもサークルに依頼を受けて料理教室をしたりしながら、食品についてのえらび方などをアドバイスしています。
				栄養士協会において各種情報を収集し、身近な人々に話している。
		40～49 歳		学校等で料理講師のボランティアとして保護者対象の教室を開催
				保育園栄養士として保護者の相談にのっている。(お便りを発行している)
				栄養士会等の勉強会で呼ばれたときに話します
				生活協同組合で、利用促進(提携のもの)をしている
学校給食の地産地消の会など				
食生活改善推進委員として地域の活動に関わることが多く、その度必要とあれば伝達している。				
60～69 歳			食料品消費モニターのサポーターとして、地域の人に対して、資料とかを提じて説明したりしています。	
			コープの組合員会議などでお伝えしています。	
食品関係研究 職経験者	男性	30～39 歳	大学・大学院の栄養士養成課程の授業で利用	
			40～49 歳	社団法人の会員として活動しています。
			50～59 歳	業界団体の JAS 講習会講師
			60～69 歳	市食品安全推進懇談会の委員として活動している。

職務経歴	性別	年齢	回答		
			専門家の会合でのレクチャー、執筆(専門誌)、ODAの調査等 加工食品製造会社が集まっている組合で話題を提供している		
		70歳以上	食品産業協議会、冷凍食品協会、地域又は個人で食品化を進めている人々へコーディネート的な指導を行う 地域のボランティア団体に所属し、食品の安全性に関する講習会や電話相談などに対応している。 協同組合の組合員に対して学習会等で食品の安全性に関する情報提供している。 活動しているとまではいえないかもしれませんが、役場の職員等と機会をみて話し合っている。個人的に役場の職員と話したり、実際の農家での使用方法を見て役場職員、県職員とも話し合っている。農薬使用については、昔のDDT、BHC使用時代からあまり進んでいない。		
		女性	30～39歳	地域の消費者の集まる場で食の安全に関する交流をしています。	
		40～49歳	授業のほか、社会活動としての参加。社福協の食品衛生に関する講師(2005は講演4回)。		
	50～59歳	消費生活アドバイザーの集まりなどで、知人に情報提供している。 ガールスカウト活動において食に関する集会時に栄養面や安全面を考慮し指導している 問15と同様 社会通信教育(栄養関係)の受講生、修了生の方々との学習会(食の話題と実習)。土曜スクール(小学生との食の話題と実習) 在宅栄養士ネットワークでの仕事の際に時々食品の安全に関する情報も交えながら活動している。 講義やシンポジウムの際の質疑応答に役立っています。また日常の食品検査室での仕事(電話相談)や保護者への説明にも、たいへん参考になります。			
	医療・教育職経験者	男性	40～49歳	農政事務所の「食育部会」委員となっている。	
			60～69歳	食育ボランティアの集まりで情報の交換などを行っている 消費者協会を通じて活動しています。 団体役員としてのボランティア活動として食品の安全について活動している。 県の食品ウォッチャー	
				70歳以上	薬剤師会(県)の保健部門(学校関係)で相談役をしており、役員会で食の安全について約1時間講話した。(学校給食の衛生管理に関連あり)基礎知識はあるが認識度にバラツキありと感じた(質問を通じて)
				女性	30～39歳
		40～49歳	地域の食育のNPOで活動している。 栄養士として、講習会などに参加		
			50～59歳	看護学校で生活科学を非常勤で教えている。 学校保健委員会や調理の人達との集まり 在宅の栄養士会の活動を通じて市のボランティアの食育活動等に協力しています。 県の食品表示ウォッチャーになって、スーパーなどで食品表示と鮮度等に気をくばっている。	
				60～69歳	県栄養士会会員として、福井県の食育ボランティア活動をしている。 NPO法人会理事長として

職務経験	性別	年齢	回答
			町内会(自治会)の研修会で食品安全に関する話題を提供している。
		70歳以上	食に関する研修会の意見交換などで食品安全モニターで習得した食に関する科学的な知識は大変有効である (無記入)
その他消費者 一般	男性	30～39歳	活動団体において、HACCPシステムの普及啓蒙を行っている。
		40～49歳	消費生活アドバイザーの資格を生かし、市民生協の組合員の声(ボイス)担当として対応
		50～59歳	団体役員として食品企業の衛生指導、HACCP、ISO22000などコンサルティング業務を通じて行っている。
		60～69歳	市消費生活センターにボランティアとして広報や学習会に協力。NPO 法人の正会員として活動。 地域ふれあい協議会(定例会等)本題終了後、食品安全モニター活動報告会を行っている。自治会役員会 人口約6,000人 15人～20人出席) 地域で中高年の生涯学習にボランティアとして参加し、食品の安全学習講座のサポートをしています。
		70歳以上	食品安全委員会からの送付資料を消費者の会において配布する。
	女性	30～39歳	栄養士のNPOで広く対象に食育活動を行っている。
			食品モニター的な仕事。
			地域ボランティアとして食育クッキングに参加している。
			職場(クリニック)において、スタッフと患者様に栄養指導を行っています。
			地域の栄養指導業務
			地域の保健所に栄養士として登録しその定例会議などで
			広報誌に食品安全委員会関係の情報を掲載してもらっている。(会員100名程度の集まり)
		食品ウォッチャーとして、スーパーの表示違反を見て、報告する。	
		40～49歳	学校において、給食モニターとして地産地消、など食育等、指導、意見交換している。
市の消費者教育や生涯学習の現場で行っている他、自分の主催するセミナーでも行っている。			
学校の保護者による料理サークルにおいて、消費者センターの食品に関する講演を依頼している。			
食生活改善推進員(ボランティア)として地域の人々の食品の安全性に関する質問等に対応している。			
環境問題を考える学習会での情報提供			
食生活改善推進ボランティアとして、市の健康まつりなどに参加し、活動している。			
生活協同組合の活動に参加			
生協の委員として地域の方へ色々な面で伝えている。			
食生活推進委員として、地域で活動(調理補助)			
地域のボランティアサークルで「食育を考える会」を主宰している。そこで食品の安全性に関する情報を提供している。 ・自然食品購入の拠点となっている。 ・食の勉強会への参加。			
消費生活アドバイザーの有資格者の会で食について広く考察し活動する場があります。			
主婦同志の集まりの場で一般に販売されている食品の安全性やその確かめ方などを話し合っている。			
行政の消費者相談窓口において、食品の安全性に関する相談を受けることもある			

*

職務経歴	性別	年齢	回答
			食生活推進員として、ボランティアではありませんが、食事の提供をたまにしています。 地域のボランティア団体に所属し、調理実習をするなかでモニターで得た情報を随時話すようにしている。 COOP の会員として工場見学、意見交換会に出席し、企業側の方々に消費者側の意見を伝えている
		50～59 歳	生協の理事の立場で組合員対象の食の安全食生活についての学習会の講師と市の食品安全対策協議会の委員をしている。 「市食品安全推進懇談会」発足の際一般公募委員に応募して、採用されました。その会合の際に、このモニターで得た知識や資料が大いに役立って、市の担当者にも情報を提供できる場合もあります。 郵送資料の回覧及びファイルして公民館等においてます。 県の食の安心サポーターという仕事を1年間やってきました。 県生協連合会において食の安全・消費者政策専門部会の委員として県行政を懇談したり要望を出したりしている。 消費生活研究会 鶏卵について会員と共に勉強しまとめていてまわりの人に配る予定 NPO 法人に所属し、食品を購入している。 県食品表示ウォッチャーに登録している 地域のボランティア団体に所属し、食品の安全性に関する啓発活動をしている。
		60～69 歳	消費者協会に於いて食の安全の勉強をしている。 調理部に於いて残留農薬、添加物、原産地表示 農産加工グループに対し、食品加工の安全管理の指導をしている。 地域のボランティア団体に所属し高齢者交流施設に参加されている皆さんに食安委員会からの資料や問いかけをしています。 市の生涯学習課の料理講師並びにカルチャースクール講師 学校給食の栄養士、調理師等の研修会や公民館・企業の料理・栄養指導 地域の在宅栄養士集団で毎月例会を持ち、学びながら、地域の高齢者、一般住民を対象に栄養相談や栄養・食事展、アセスメント(現在は配食サービスの)等々を行っています。その他、介護保険対象者宅へ伺うヘルパーさん達に調理実習や栄養、食品衛生に関する講習会も個人で行っています。(毎月定期的に) 問17に関連して、地域の保健所の公募に応じ、「食品衛生コラボレーター」として生産、販売(製造を含む)、消費者のグループで随時保健所からの食品保健情報を得ながら、講演・講習会や工場見学、地域での食事展開催を(本年度は2月20日に開催)したりしています。 管理栄養士として活動している場所で 上記の研究会や、生活協同組合の活動で食品の安全の問題にとりくんでいる。 地域のボランティア団体に所属し食品の安全に関する話を機会ある毎に話しています。
		70 歳以上	食の安心安全政策づくり、グループ講師活動 etc 地域活動、消費者相談活動などで 県栄養士会長として県民の健康づくりと会員の資質向上実施 食生活改善推進協議会

*問 16 無回答